

# ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 17



北海道市営競馬協議会

27.2

## 目次

会報発刊にあたり……………	坂東 徹……………	3
昭和六十二年度のばんえい競馬に思う……………	白岩 歳三……………	4
ばんえい今昔……………	浅川 英夫……………	5
事務組合を考える……………	堀 武夫……………	6
ばんえい競馬いろいろ……………	中園 直樹……………	7
ばんえい競馬も底入れ方向……………	大原 尚……………	9
ばんえい便り……………	鈴木 一彦……………	13
ばんえい種の夢……………	……………	17
農用種雄馬の購買配置……………	……………	19
一五〇〇勝にあたって……………	金山 明彦……………	20
マスコミに取り上げられたばんえい……………	……………	22
昭和61年度リーディング……………	……………	30
祭典ばんば……………	……………	31
昭和六十二年度番組編成要領……………	……………	38
受賞ランキング……………	……………	39
種雄馬ランキング……………	……………	40
昭和六十一年度引退馬……………	……………	41
昭和六十一年度道、市営競馬成績……………	……………	48
昭和六十二年度道、市営競馬日程表……………	……………	49

No. 17 1頁, 2頁  
ページ消失のため省略

# 会報発刊に寄せて

北海道市営競馬協議会

会長 坂 東 徹

昭和六十一年度の会報発刊にあたり、関係各位のご健勝を心からお喜び申し上げるとともに、市営競馬の開催並びに本会の運営にあたりましては常日頃何かとご指導ご協力を賜りましてここに厚くお礼と感謝を申し上げます。

さて、昭和六十一年度の市営競馬は、開催回数が二十二開催で延べ一三二日間・一、三五六レースを実施致しまして、各主催者とも広報その他各種イベントの実施等懸命の努力を重ね、不振挽回に努めたところでありますが、結果といたしましては、入場人員は三二二、一六六人で前年対比は九七・四二パーセント、売得金では、二百十二億六千三百万余円で同じく前年対比をいたしますと、総額では一〇三・九八パーセントと若干の伸びを示してはいるものの、これは開催回数が増加したことによるものでありまして、一日平均発売額で対比いたしますと、九九・三パーセントでありまして前年度に引き続き低迷状態であると存じます。

地方競馬の開催状況は全国的に上向きに転じて来たと言われてはおりますが、本道にあつては、なかなか他主催者の仲間入りが難しいものと判断されるのでございます。

この背景にあるものは、ばんえい競馬はその発祥の歴史が本道の農林業にあり、他の地方競馬に比し一段とローカル色が濃く、一次産業の好不況を敏感に反映するものと存じます。

本道の産業を展望いたしますと、今更私が申し上げるまでもなく、水稻の減反は全国一の高い傾斜配分を受け、牛乳の生産過剰、米ソ二百カイリ水域での漁船の操業締め出し、炭鉱の相次ぐ閉山、鉄鋼不況、加えて国鉄の民営化に伴う乗剩人員の整理問題等々産業界全体にわたって、前途に明るい展望が広がらないのが実感されるところであります。

このような背景のもとに、世界唯一の競走である我等がばんえい競馬の灯が消えることのないよう主催者・馬主・厩舎関係者が一丸となつ

て、それぞれの分野での不断の努力、創意・工夫を凝らしたばんえい競馬の開催にあたり、この難局を乗り切らねばならないとその使命感をひしひしと感ずるところでございます。

昭和六十二年度の開催にあたりましては、以上申し述べました使命感に徹し、競馬の公正確保は言うに及ばず、ファンから喜ばれる競馬とするための諸施策、特にかねてより検討を重ねておりました、場外発売に向けた映像伝送をいよいよ実施することになり、既に一部工事の実施を含め、初開催からファンに提供出来る見通しとなりました。また開催業務の一元化と合理化のための一部事務組合の設立につきましては、昭和六十一年四月一日付で発足したプロジェクトチームの事務推進が四市の協力のもと着々と進行中と聞いておりまして早晩一部事務組合の産声が聞かれるものと大いに期待をしているところであります。

いろいろと所感を申し述べましたが、関係各位と相携えばんえい競馬進展のために一層の努力を傾注しこの難局に当たりたい決意でございます。

最後に今後とも皆様の一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。会報発行を機会に私見を交え、所感を述べましてご挨拶といたします。

# 昭和62年度のばんえい競馬に思う

北海道市営競馬協議会

参事 白岩 歳三

今年の正月は連日雪となり、四日の日は吹雪模様で交通障害となったニュースが耳に入り、厳しい年の幕明けを感じさせられました。一方では次代を担う室蘭大谷高校の若者達が、雪国のハンデを克服して、全国の名門校を蹴散し全国ベスト4の栄冠をものにした。全国高校サッカー大会のニュースは、鉄冷えといわれた暗いムードを忘れさせてくれた痛快なニュースであり、今年の社会は、こんな明るい話題の多い年であるよう新たに念じた昭和六十二年の正月であった。

昭和六十一年度のばんえい競馬は、キンタローの一億円達成と金山騎手の一五〇〇勝達成といった競馬ファンのみでなく、日頃ばんえい競馬に関心の薄い方々でも、これらのことが会話の種になるなど、近年にない盛り上りをみせた一年であり、このことはNHKテレビが、夜のゴールデンタイムに特集として、ばんえい競馬の馬と人間のドラマを放映していただいたことを始めとして、各報道機関がばんえいの記事を流していただいたことにも現れていたのではな

いか。おかげ様で、全国的な公営競技の復調基調の流に乗れたようで、特に後半の押せ押せムードは、六十二年度に掛ける意気込みを強く持てる一年の締めくくりであったと思います。さて、昭和六十二年度はばんえい競馬にとって正念場であり、うさぎ年に相しい飛躍を遂げなければならぬ年であります。

十数年前に取り組んだ効率的な運営と公正競馬の質の向上を図るための一部事務組合設立は、いよいよ最終の年となり、それこそ待たなしの年度を迎えることになる訳ですが、今日までのこのために蓄積してきた力を出しきれるかどうか、ここに成功の鍵があるように思います。

しかしこの間経済的高度成長、低成長といった急激な変動があり、またファンの余暇に対する価値感の変化もあつたりして事業を取り巻く環境の違いもあつたが、永年を要してきた種々の事情を考えると、力を出しきることが容易でない現況にあり、関係者の心を一つにした決断を切に望む次第でありますし、このことはファンはむろん、事業を支えて下されておられる関係

者の期待に応え、これからのばんえい競馬の安定的発展の基点となるものであり、我々直接事業にたずさわる者に取って、二度とないこのチャンスに厳しく心してまいらなければならないものと考えているところであります。

次にファンあつての事業であり当然のことながらニーズに応じることがこの事業の原点になっていることに照して競技の魅力づくりと合せ、今一番ファンが求めているのは情報化社会に見合う豊富で質のよい情報の提供であり、このことは主権者にとって費用に対する強い重力感はあるものの原点に立つてニーズに應えるべく映像伝送による有効活用を図りながら情報量の増を図るものであります。更に、便利性が価値感を高める社会にあつて身近なところではばんえい競馬を楽しめることも今日の課題であり、今後の健全運営面からいっても、重要かつ緊急を要する課題として一日も早い実現の期待に相うように努めなければなりません。

以上今年の特筆ともいえることを述べましたが、これらを柱として六十二年度のばんえい競馬も前年に引き続き社会の明るい話題となりつつ、飛躍の年になることを心から願うものであります。

# ばんえい今昔

北海道市営競馬協議会

事務局長 浅川 英夫

昭和三十一年旭川市役所に奉職以来競馬事業に従事し、今日に至っているがその間二十五年競馬にたずさわってきたことになる。その当時は、今の近代競馬からは想像もつかない思考錯誤の中で発展してきたもので、関係者のアイデアまたは英知の結果が現在のばんえい競馬に仕上げたことを思うとき、隔世の感を禁じ得ない。

そこで思い出すままに、ばんえい競馬の変遷を回顧してみたい。

市営競馬の発足は昭和二十八年であるから私が競馬に従事した始めの頃は、外回りの仕事は人的関係から競馬協力会の応援を得て推進されていた。即ち出走馬の募集、馬の格付け(昔は、甲乙丙丁)、検量・走路審判等は、馬に明るい競馬協会のメンバーに全面的に依頼し、競馬運営がなされてきたものである。

当時は、農耕馬或は運搬に使役している馬が集まったもので馬主自身がほとんど騎手となり騎乗していた。

騎手の服装を上から記すと、むこう八

巻・白シャツ・乗馬ズボン・地下足袋が正装であり、少したつて緑の帽子緑の騎手服を主催者が貸付けた。それは二替り用意されていたがレース毎に着せたり刺いだりしたものであり、夏は汗臭くまた雨降りには濡れた服を着てもらわなければならぬので、騎手からの評判は悪かったようである。

なお始めの頃は、騎手の体重とか騎乗回数の制限はありませんでした。

番組編成に必要な馬の格付けは、各競馬場で開催前日競馬協力会の有志数人で馬格を目で判定し、甲乙丙丁に振分けたものです。その後目で判断するのは正確さを欠くとのことで、ウエイト制を取入れ三年位い実施したが、春先二十キロから三十キロも馬の体重を下げる者がいたので動物虐待になるため、とり止めとなり今の賞金獲得制度になり定着しているのである。

積載重量の表示は、現在は牽引している鉄馬櫓込みであるが昔は積載物その物の重量を表示し昭和四十四年の農林大

臣賞典レースでは、木櫓に千百キロを積載して走らせたがこの重量は、ばんば界では最高のものでタイムも六分十秒かかり、ハルトカチ号が優勝したことを記憶している。

重量物は、始めの頃はカマスの土糞にハンテ十キロは依の土糞であったがレース中に依が破れ後検量で一着馬失格となり、騒擾事件となったためコンクリート製となり、現在の鉄の板と変ってきたのであります。

馬櫓は木製で、農家からの借上げであったが不揃いのため主催者が備品として揃えるようになり、やがて木製馬櫓が製造されなくなったので止むなく鉄製に変更し現在に至っているのです。

走路は昔は、U字型のオープンコースであったが、進路防害或は衝突等で人馬に危険を及ぼすということで直線セパレートコースに変わり、発馬機もばんえい用に研究を重ね現在に至っている。決勝判定は肉眼で判断していたが着順での騒擾事件が相次いだため、写真判定会社に研究を依頼し写真判定が実現したものであり、始めはスタンド側からの撮影のみであったが櫓の後端を判定するのには他の馬或は馬櫓で影になることがあり、判定に苦労することから対面タワーを建て撮影するようになったのであります。以上のようにそれぞれの理由があつて研究を重ねて今日の近代的ばんえい競馬に発展してきたのであり、今後も関係者の努力により変遷して行くことでありましょう。

今は勝馬投票券の発売も機械化され発売集計もコンピューターが使用されており、本年からはファンサービスの一環として場外発売所でレースの実況とかオッズを観てもらおうようにするため、光ファイバーによる映像伝送システムが導入されることになりましたので一段と近代化が進むことでしょう。

現状の競馬運営は厳しいものがありますが、これ乗り越えるためにも関係者が一丸となつてばんえい競馬振興策を建てそれを実行して行かなければならぬ時期であり、関係者は英断をもってことに当らなければならぬと思つています。



# 事務組合を考える

北海道市営競馬協議会

庶務課長 堀 武 夫

協事務局に下駄を預ける形となり、いつもながら「市協事務局は何をしているのか」という批判を被るのみである。市協事務局の使命であると言われればそれまでであるが、何か思い切ったことをしなければ、前進はないのではないかと痛切に感ずるところであり、敢えてここに私見を申し述べる次第である。

市協在職中のことを何か書けと担当者から言われ、さて何を書こうかと思ひあぐねたが、これはというものもなく、結局自分は何の業績もあげることなくただ杳然とこの六年間を過ごしただけではないか、と思ひ至って今更ながら恥ずかしい限り、と反省することしきりである。

ただこの六年間を振り返ってみると事務組合問題に振り回された感がないでもない。

特に昭和五九年四月に発足した通称中川委員会の活動であったと考える。

委員会は部会を含め前後五回に亘り開催し、検討の内容としては、既に四市間で合意を見ていた事項の見直しであった。委員会においては一応の結論を引き出し、答申に至ったが、総会においては更に問題を先送りしたに止まり、進展を見ることなく、これらの懸案事項については未だに進展をみていない。

その後四市助役会議が総会を含めて前後数回開催され、事務局長の交代を期に新たなプロジェクトが発足し、現在このプロジェクトチームが精力的に諸問題の解決を導くべく活動しているが、あちらを立てればこちらが立たずの譬えのとおり仲々好結果が得られない現状である。抜本的な解決策としてはプロジェクトチームの活動というか、決定権というか、もっと広い範囲の権限をプロジェクトチームに与えるといった思い切った対策が必要ではないかと思う。でなければチームが打ち出した対策をその都度運営会議に掛け協議をしても良い結果が得られないことは過去の経過から見てもはっきりしていることであり、何時までたっても前進しないと考えている。

また、助役会議にしても総会にしても、四市がそれぞれの主張を繰り返すのみで、結果は市協事務局に下駄を預ける形となり、いつもながら「市協事務局は何をしているのか」という批判を被るのみである。市協事務局の使命であると言われればそれまでであるが、何か思い切ったことをしなければ、前進はないのではないかと痛切に感ずるところであり、敢えてここに私見を申し述べる次第である。

事務組合になることは市協職員にとっては永年待ち望んだ夢の実現で非常に喜ばしいことであるが、反面においては、事務組合はその所在地を旭川市或いは岩見沢市とすることが決定づけられていることから職員とその家族は否応なく住所を移転するか又は単身赴任の道を選択せざるを得ない立場に置かれることである。事務所問題では、四市の中で「市協職員の生活環境の激変は避けるべきだ」とする意見もあるが、私はプロジェクトチームが打ち出した「岩見沢市が望ましい」とする意見が最良の道だと思ひました是非ともそうして頂きたいものと考へる。

市協職員にお願いしたいことは、事務組合への移行によって市協職員はそのまま地方公務員の一員となることは約束されているものであり、当然公務員としての責務が要求されるところであるから意識の改革とそれなりの対応を十分弁えて欲しいものだと思っている。

# ばんえい競馬いろいろ

北海道大学医学部助教

中園直樹

高校の同級のS君がばんえい競馬の獣医をやっている。一度見にこないか？というのでドライブを兼ねて岩見沢へ出かけた。独りではつまらないので、競馬にも興味があり車の運転も出来るという友人と二人で出かけて行った。

競馬場に着くと早速獣医控室でS君が行う出走前の一通りの検診を見せてもらった。ヒトの場合と異なって、具合がどうか？痛いところ？気分が悪くないか？などの訴えや症状を尋ねる問診が出来ないので、視診が特に重要であるとのこと。出走前後の尿を採取して、所謂興奮剤を中心とした薬物の検出することも競馬ならではの事である。

出走できるまでには能力検定と健康診断が、ばんばもヒトと同様に行われる。ヒトの病気の多くは家畜でもみられる。またヒトと家畜共通の伝染病は人畜共通伝染病と呼ばれ、家畜がヒトの感染源になっている病気も数多い。私の専門はウイルスで起きる伝染病の疫学であるが、この分野は獣医学の領域と極めて関連が深く、

むしろウイルスの研究では動物の場合には実験や屠殺ができるだけに医学よりも獣医学の方が進んでいるところも多い。ウマ伝染性貧血という病気は馬の世界では危険な病気で、嚴重な検診が行われるが、これを起こすウイルスは今話題のAIDSのウイルスと同じ群に属するウイルスで、ひよとしたらAIDSの光明は獣医学のこの分野から現れるかもしれない。また日本脳炎などの各種の予防注射もヒト同様行われている。

出走前の検診を見たあと、スタート地点へ連れて行ってもらった。鉄ソリをつけるところも見せてもらったが、体重約一〇〇kgの馬が乗る用車一台分以上の重量のソリを牽いて砂地のコースを走るわけである。コースには二つの山がある。最初の山は然程の勾配ではないが、二つ目はかなりの勾配である。高低差が一・八mのこの二つ目の山の上下りが勝負を左右する一番のポイントで、ゴールまでの残り八〇mが最後の勝負のあやである。

続いて、馬券売り場を見学させてもらった。

単勝、複勝、連勝複式などの各売り場の機械がコンピュータと連動しており、即座にオッズをはじき出している。配当やオッズを算出している大型コンピュータも見せてもらった。次いでゴールラインの延長線上にあるゴール判定室を見せて戴いたが、ばんえい競馬の着順は、ソリの最後尾がゴールラインを通過した順で判定することその時初めて知った。その判定するところも見せてもらったが、通過の様子が、瞬時に写真で送られてくる。写真もコマ送りでは着順とタイムを正確に判定している。時折同着ということも起きるそうだが、同着というその写真も御厚意でを見せて戴いた。また、各レースごと、全コースにわたりスタート点からゴール迄を、後方からビデオテープで録画されており、レース後、瞬時に再生されて公正審判員室でレースの審査が行われたのち、着順が確定している。様々な高度な科学技術が導入されて正確性に問題がないように努力されている。

私のばんえい競馬とのつきあいは、この様な舞台裏を見せてもらうところから始ったが、何事も新鮮で、とても興味深かった。また馬券売り場やスタンドの思わぬ所で、私が大学院時代に産業医として通っていたダイナマイト工場の



人々と偶然出会うなどのハブニングもあった。

おさらいのつもりで、その日は最後の二レースに限って馬券を試しに買って、馬を視るところから馬券買い、オッズ、配当の予想、スタートからゴール、着順判定までのながれを経験してみた。馬券を買うと、冷静さと客観性を欠いて、どうしてもその馬を応援することになる。特に二つ目の坂の上り下りには知らず知らず力が入る。また自分が上り下りしている様に興奮する。馬券の結果は私は駄目であったが、友人は当てることができた。私は舞台裏に興味を魅かれたが、友人は普通の競馬とひと味違ったばんばに大いに興味を示し、またその日の配当に気をよくしたのか、また来ようということになった。帰路に見つけた洒落たケーキ屋さんのケーキもその後の楽しみの一つになった。

およそこれまで競馬には関係なかったが、競馬場での人間模様は、生きている人間そのものが実に良く投影されており、大変興味を持った。そして、それが一番良く現れるのは馬券の買いかたの方である。実に良くその人の性格が現れるものである。堅実で堅い人は期待値を最大にする手を選び、ギャンブル性の高い勝負を好む人は、分散が最大の手を選ぶ。負けがこんで一発で取り戻そうと欲張る人は期待値の幅の最も大

きい手を選ぶ傾向にある。優柔不断の人は窓口でも迷っており、人が買った馬券をついつられて買う。

以前に麻雀のツキを統計的に検討したことがあるが、その時読んだことのある勝負の統計学という本の統計を紹介しよう（表を参照）。昭和五四、五五年の二年間に開催された中央競馬三二九九レースでの優勝馬（単勝）の人気別平均配当と平均勝率である。平均配当と平均勝率を掛けた期待賞金額は四番人気で最大であった。

分散の大きい手、即ちギャンブル性の高いのは九番人気、次いで七番人気であった。堅書で堅い人は四番人気を、ギャンブル性を好む人は九番人気を買われたら如何でしょうか……負けがこんでにつちもさつちもならない人は、勝率は極端に低い大穴中の大穴しか挽回の手がない。

統計学的には四番から七番人気の馬券が得策の様である。私は大体はこの買い方で、レースにより一番、九番人気を追加する。これだと負けが比較的少ないのではないかと思われる。

二回目からは、私なりの馬の見方に基づいて馬券を買ってみた。勝負の最大のポイントは第二の山の上り下りである。砂地の山の上り下りに必要な筋肉は何か？。はいあがる（車のエンジンではF/F車）に必要な筋肉が発達すれば、

人気	平均配当(円)	平均勝率	期待値	分散
1	234.62	32.68	76.67	12110
2	405.24	19.34	78.37	25618
3	579.12	13.79	79.86	39871
4	726.63	11.15	81.02	52307
5	1013.09	7.06	71.52	67345
6	1260.06	5.37	67.67	80684
7	1540.98	4.03	62.10	91841
8	1873.88	2.58	48.35	88257
9	3014.61	1.39	41.95	124566
10+	4949.07	0.29	14.34	70825

人気別平均配当と平均勝率（「競馬成績一覧表」トータライザーより集計）。

ヒトでいえば大胸筋の張った感じの体形？であろうし、蹴って上り下りするのであれば（F/R車）、ヒトでは大腿四頭筋の発達した感じの体形？と、独断的データの観点から馬を観察して、先の統計を参考に馬券を購入した。もしも車でレースをということであれば、四WD車が最適であろうことは容易に想像されるが……。

そして成績は？如何に。毎回帰りに洒落たケーキ屋さんのケーキは少なくとも買えたし、札幌―岩見沢往復の高速自動車路の料金は十分払えた。一〇〇円の投資で期待賞金七五円の競馬では勝利と言える成績であろう。

今年も夏の岩見沢ばんばに出かけるつもりであるが、今年はまだ違った興味ある観戦の仕方を見つけようと思っている。

# ばんえい競馬も

## 底入れ方向へ...

北海道市営競馬協議会

業務課長 大原 尚

昭和61年度は、相互場外及び釧路場外の場外発売を重点施策とし、また本道産業の根幹となる農業経済の好転化を期待しての開催となったが、総売得額では前年対比一〇四・〇％と上昇したものの、一日平均売得額では九九・三％と六年連続の減少となった。

しかし、昭和五十六年度以来毎年十％前後の低落が続いたばんえい競馬も、本年度において後半に盛り返し〇・七％の減少にとどまり、ようやく底入れ方向に動き出したようだ。

### 六十一年度を顧みて

本年度は、四競馬場間の相互場外発売回数を大巾に増加（五十二日間）するとともに、釧路場外を含め場外発売締切時間を十分前に短縮するシステムを導入する等場外発売に重点をおき、北見競馬場の施設改善にもなう特別競馬二開催増、岩見沢市で開催された北海道21世紀博覧会に協賛した「遊トピアサンデーレース」（薄暮競馬）の開催、PR活動の強化等ファンサービスの向上と競馬事業の活性化策を図り、四月二十六日北見で開幕、二

十二回、一三二日を開催、十二月十六日

北見競馬場を最終日として無事閉幕することができましたが、開幕当初発売成績が大きく崩れ暗澹たる様相を呈したが、演話題馬キントローの活躍等で盛り返し、後半久し振りに売得金額が増加しており明るい兆しといえそうです。

### （開催回数と日程）

開催回数は、旭川、帯広、岩見沢の三場は各五回、北見は施設改善特別競馬二開催増で七回となり、ばんえい史上初の二十二回、一三二日を開催した。

本道の競馬シーズンは四月下旬から十一月中旬までと限られた日数のなかで、中央競馬、道営競馬、市営競馬の三つ巴の日程調整は困難を極め、二開催増にもない、北見競馬場で前例のない十二月十六日までの冬期開催に踏み切った。  
氷点下十度前後にまで下がる気温のため、凍結路と雪上レース対策として、農水省の了解を得て、十一月二十九日から第六回開催から出走全馬に刻み蹄鉄を装着させてのレースとなったが、事故もなく無事閉幕することができた。

### （売得金額）

本年度の売得金総額は  
二二億六千三万五八万円  
前年対比八億一千四八万四円増（一〇四・〇％）でしたが、一日平均前年対比は九九・三％の成績で、相互場外、釧路場外等に大きな期待をよせていたが、結果は六年連続売上減少に終わった。

各競馬場別の売得金額は、  
旭川 六〇億七千二四五万円  
帯広 四七億八千四七五万円  
北見 五四億四千二八〇万円  
岩見沢 四九億六千三七五万円  
で、特に北見が予算を大巾に下廻る不振な成績であった。

一日平均売得金の前年対比は、  
61年度 55年度対比  
旭川 一〇四・七％（六七・五％）  
帯広 一〇三・八％（六〇・八％）  
北見 八六・三％（五七・九％）  
岩見沢 一〇七・六％（六一・四％）  
平均 九九・三％（六一・一％）  
で、六十年代八〇％台に落込んだ旭川、帯広が復元の兆しをみせ、岩見沢も七年振りに弾力条項を適用する健闘をしたものの、北見は春先三開催、場外日数の大巾減等に伴う不振が最後まで影響し、六年連続の減少となり、四場平均九九・三％の成績で終了した。

場外発売が充実し一本格化するると、本場発売額が低下の傾向を示すのは歪めないことであるが、本場の落込みが予想をはるかに上廻って、本場六四・六％（前年

比八・二％減）場外三五・四％の比率となった。  
本場の一日平均売得金の前年対比は、

61年度 55年度対比  
旭川 九八・四％（四九・二％）  
帯広 九三・五％（三六・四％）  
北見 七六・一％（三三・六％）  
岩見沢 八七・八％（四一・〇％）  
平均 八八・一％（三九・五％）

で、本場の発売額が前年比八八・一％と大巾に減少したことが、低迷からの脱出を阻む要因と推察される。  
一人平均購買額（除場外）及び前年対比は、

旭川 四四・九五六円（九三・三％）  
帯広 三九・一三三円（九七・〇％）  
北見 四三・五九一元（九三・二％）  
岩見沢 四二・二五五円（九三・一％）  
平均 四二・六五七円（九四・七％）  
で、各場ともに減少しているが、帯広は遂に四万円を割り平均では二千四〇六円減と低調な成績で終わった。

地方競馬の全国平均は、四万四千五百〇円で前年対比一〇一・七％であった。  
全国の地方競馬は、昨年終盤から成績の復元傾向に入り、六十一年の一日平均売得金上昇率（一月から十二月）は、一〇六・〇％と昭和五十五年以来六年ぶりの前年を上回る好成績であった。  
全国三十一競馬場のうち一〇〇％に充たなかった場が十一場あり、北見の八六・三％は、宇都宮の八九・一％より下廻り、ワーストワンの成績であった。

道営競馬一日平均売得金を一〇〇として  
の比較は、競合した旭川と岩見沢は

旭川 一〇五・七%

岩見沢 七八・一%

で、道営旭川は上昇率一六〇・九%で全  
国第一位、道営岩見沢は一二三・二%で  
全国第三位と共に札幌場外への映像伝送  
が好評で好成績となり、前年比旭川は五  
六・八%減、岩見沢は一・三%減と道  
営競馬の驚異的な伸びが目につく成績と  
なった。

**(入場人員)**

本場入場人員は、昭和五十五年度の五  
三万五千名をピークとして、売上同様六  
年連続低下し、前年対比九七・四%の結  
果となったが、本年度は場外発売日数の  
増加により、総入場人員は前年対比一〇  
〇・三%と横ばいであった。

本場入場者 三三二、一六六名  
場外入場者 二四四、五一三名  
合計 五七六、六七九名  
四競馬場の本場入場人員及び一日平均  
前年対比は、

旭川 九七、九三三名 一〇五・五%  
帯広 七三、二九一名 九六・四%  
北見 七二、四四三名 八一・七%  
岩見沢七八、四九九名 九四・三%  
で、旭川は増加したものの、前年対比平  
均では九三・〇%と依然として減少が続  
いている。

で、女性の比率は昭和五十五年初調査以  
来の高率を示し、女性入場者増に伴う「フ  
ァミリーばんえい」化の傾向が目立った。

**(場外馬券発売)**

本年度場外発売日数は、

本場	場外発売場と発売日数				
	旭川	帯広	北見	岩見沢	釧路
旭川	30	30	18	13	91
帯広	30	30	18	13	91
北見	34	30	24	20	110
岩見沢	18	30	17	17	76
合計	73	82	90	60	368

で、昨年と比較して旭川七日、帯広十日、  
北見六日、岩見沢三十一日各増加し、前  
年比五十二日増の三六八日発売した。

各場毎の場外売得金と場外比率は

旭川 一六億七千〇一五万円 27・5%  
帯広 一九億一千六四七万円 40・1%  
北見 二二億八千六八五万円 42・0%  
岩見沢一六億四千九二二万円 33・2%  
合計 七五億二千三三九万円 35・4%

発売日数が五二日増(一六・五%増)  
にともない、売得金額も一九億六千万円  
増(三五・四%増)と大巾に伸び、場外  
比率も三五・四%(八・二%増)と、今  
後各場共に場外のウェイトは益々増加の  
傾向となるであろう。

場外発売所毎の売得金額は、

旭川場外 二一億六千九百三十三万円  
帯広場外 二一億八千五百八十三万円  
北見場外 一九億九千〇五八万円

岩見沢場外 五億二千四〇二万円  
釧路場外 六億五千三〇二万円  
で、一日平均売得金額と前年対比は、

旭川場外 二千九百七十一万一千九百  
帯広場外 二千六百五十一万二千九百  
北見場外 二千二百一十一万一千三百  
岩見沢場外 八百七十三万一千四百  
釧路場外 一千〇三十七万九千九百  
平均 二千〇四十四万一千六百三  
で、相互場外については、大巾な上昇を  
示し十分な成果を得たものの、釧路は開  
催日割が土曜、日曜中心に編成した関係  
上、一週間に一日乃至二日の発売しかで  
きず、ファンが定着しなかったことが原  
因と思われる。

一人平均購買額及び前年対比は

旭川場外 四〇、一七八円 一三一・八%  
帯広場外 二九、九一七円 一三一・一%  
北見場外 三五、七二二円 一三五・六%  
岩見沢場外 三一、三三〇円 一一〇・〇%  
釧路場外 一四、五二二円 一〇三・四%  
釧路については、発売日数六三日のう  
ち道営競馬との同日発売日が三九日あり  
入場者区分の把握が困難なため教値は正  
確ではないが、市営単独発売日の一日平  
均売得金は一、二八〇万円、一人平均購  
買額は二万四千七百六十三円であった。

総入場人員 一日平均

旭川場外 五三、九九八名 七三九名  
帯広場外 七三、〇六三名 八九一名  
北見場外 五五、七二六名 六一九名  
岩見沢場外 一六、七二六名 二七八名

釧路場外 四五、〇〇〇名 七一四名  
合計 二四四、五一三名 六六四名  
場外日数増にともない、総入場者は九  
千九百六名(前年比一〇四・二%)増加  
したが、一日平均では七八八名(前年比八  
九・五%)減少しており、今後情報提供  
に関するファンサービスが急務と思慮さ  
れる。

釧路場外の中央競馬及び道営競馬の成  
績は次のとおりである。

中央競馬 一〇四日(土、日曜発売)  
発売額 八七億六千九百八十五万円  
一日平均 八千四三二万円  
前年対比 一一〇・八%

道営競馬 八八日(平日発売)  
発売額 一六億〇六六十一万円  
一日平均 一八八二五万円  
前年対比 一一五・五%

市営競馬 六三日(平日発売)  
発売額 六億五千三百一十一万円  
一日平均 一〇〇三七万円  
前年対比 九一・三%

**(競馬番組)**

五年連続売上の低速で、単年度収支で  
赤字競馬場が出現した苦しい財政のなか  
ではあるが、経費削減にも限度があり、  
厳しい状況での本年度の予算編成となつ  
たが、報償費は一開催増を含め、総額に  
おいて前年対比八千万円減額して、二一  
億二千万円計上した。

出走延頭数 一二、六五九頭  
競走回数 一、三五六競走  
一競走平均 九・三頭

競馬番組の内容は、前年に比較して大きな変更はしなかったが、特別競走の見直しによるレース減、昨年の重賞、特別競走に続き、帯広、北見競馬場において平場競走の賞金率を一九〇方式から一八〇方式に変更して実施した。

重賞競走は例年同様に二九競走を実施し、ばんえい三大重賞競走は

七〇〇万円 農林水産大臣賞典

六五〇万円 旭王冠賞、岩見沢記念

と、一着賞金は据置かれ、帯広記念は増額となった外は、据置き又は若干減額して実施した。

四〇〇万円 旭シルバークップ、帯広

記念

三〇〇万円 三競走

二五〇万円 五競走

二〇〇万円 一六競走

(出走馬)

出走申込頭数 一、三四七頭

出走実頭数 六二〇頭

新馬登録頭数 七九〇頭

で、前年比、申込頭数四五頭増、実頭数八頭増、新馬八二頭増であった。

年令別出走実頭数は、

三歳 二〇四頭 四歳 一〇三頭

五歳 八七頭 六歳以上 二二六頭

で、バランスの良い年令構成であった。

年間取得賞金額の最高馬は、一五戦三、

シルバークップ、岩見沢記念、農水大臣賞典の三重賞競走を制覇した十歳馬

キンタロー号 二、二四五万円

が、十歳牝馬のカミシホロトップ号に、

一千万円の差をつけて二年連続古馬No.1に輝いた。

キンタローは、八月二十四日の岩見沢

記念を制覇して、ばんえい史上初の通算

取得賞金一億円を突破するとともに、農

水大臣賞典を三回制覇する偉業を達成し

生涯取得賞金一億一千六十七万円で、本

年度で引退し明春から種雄馬として活躍

することになった。

五歳馬は、一八戦四勝、地全協賞、チ

ヤンピオンCと重賞二勝の

カネミフロンティア号 六八九万円

が三歳時に続いて二度目のタイトルを獲得した。

四歳馬は、一八戦四勝、文月賞、菊花

賞の二冠に輝いた。

ヒカルテンリュウ号 六七八万円

が第一位となり

三歳馬は、一五戦九勝、つつじ賞、ホ

クレン賞に優勝した。

ギンカップ号 八七二万円

が三歳チャンピオンに輝いた。

一頭平均取得賞金額は

三歳 一、三三九、九四一円

四歳以上 一、八八五、八八九円

全馬平均 一、七〇六、二五五円

であり、頭数増により前年対比、三歳六

万円減、四歳以上二万円減、平均四万円

減の成績であった。

牝馬優遇策を実施して四年目を迎える

が、本年度は四十九頭出走し、比率二四

・〇%と牝馬確保率の目標二五%に大き

く近づき、優遇策の成果が表われたもの

と推察できる。

三歳馬の性別一頭平均取得賞金額は

牡 馬 一、二六六、五〇三円

牝 馬 一、五七二、二四五円

で、前年対比牡馬は一〇万八千円減、牝

馬は七万四千円増の成績であった。

馬格については、年々大型化の傾向を

示してきたが、ここ数年急速な変化はな

く、ばんえい馬として固定化の方向に向

っているようだ。

本年度最終出走時の馬体重の一頭平

均と前年対比は、

三歳 八八三kg (四kg増)

四歳以上 九六四、七kg (6.7kg増)

全馬平均 九三七、八kg (3.8kg増)

で、最高と最低は、三歳一、〇四三kg、

七七九kg、四歳以上一、一八九kg、

五kgであり、一トン以上の馬は、三歳二

頭、四歳以上一〇三頭であった。

(キンタロー 一億円の蹄跡)

本年の開幕前からスーパーストース「キ

ンタロー」のばんえい史上初の一億円達

成間近との話題をよんで、マスコミ関係

の大々的な報道で、不振の続くばんえい

競馬も久し振りに大きく盛り上がった。

八月二十四日、岩見沢記念を快勝した

キンタローは、三歳戦デビュー以来九六

戦目にして、ばんえい競馬史上初の取得

賞金一億円を達成した。

キンタローの通算競走成績は、一〇二

戦三二勝、

取得賞金一億一千六十七万五千円

キンタローは、昭和五十二年五月五日

北海道別海町、桑川一郎氏の生産、父、ペ

ル二世ロッシーニ、母、ペル系宝玉

二歳の夏、近代ばんえい競馬三種雄

馬、二世ロッシーニ、楓朝、タカラコマ

のうち唯一の競走経歴馬タカラコマの馬

主尾ヶ瀬五郎氏が、牧場回りをしている

「やや小柄だが胴のびのした品のある」

一頭の馬に目が止り、三五〇万円で購入

した。五十二年生れ三、五八〇頭のなか

の一頭血統名二世宝玉(キンタロー)と

の出会いであった。

馬名の由来は「五月五日端午の節句の

誕生にちなんで金太郎」

キンタローの三歳初戦は五月二十六日

北見競馬場で馬体重八九六kgで初出走し

楽に逃げ切り新馬戦を勝ち上った。一着

賞金二〇万円、これが一億円への第一歩

である。三歳時は特別戦二勝を含め五勝

四歳時は特別戦二勝を含め四勝してい

るが重賞競走には縁がなかった。

五歳になって馬体も充実し、常時九八

〇kg前後の馬体重で出走し、待望の重賞

二勝を含めこの年最多の八勝をマーク、

オープン馬の地位を不動のものとした。

六歳で初めて、ばんえい界の日本一を

決する農水大臣賞典に挑戦したが、名牝

キヨヒメの二着と惜敗。

七歳になって、馬体重も一トンを越え

て逞しさを増したキンタローは、最大の

目標であった「農林水産大臣賞典」を制

覇し、名実ともに日本一となり、ばんえ

い界の王座についた。



# ばんえい便り

## 1、競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に左記の日程でこ来場になり、熱心な監督とご指導を戴いた。

5月12日 北見 小山監督官

5月24日 旭川 伊藤課長補佐

6月7、8、9日 旭川 菅野監督官

8月10日 岩見沢 佐々木課長補佐

10月18、19日 帯広 岩村監督官

12月6、7日 北見 岩村監督官

また北海道競馬事務所からは

4月27日 北見 佐藤課長

8月24日 岩見沢 川原課長

9月6日 旭川 山本課長

2、千客万来

5月10日 保安協会理事 土金賢二氏他2名来場

5月17日 ミスユニバース日本代表

6月1日 道警旭川方面本部長 警視

6月2日 旭川中央警察署長 警視正

6月9日 高橋治郎氏来場

6月6日 旭川愛善園一行28名

7月14日 韓国商工会議所一行19名

7月16日 アメリカカポカテロ市長来場

8月10日 タレント 佐良直美さん

8月25日 東京都特別区議会議員一行17名来場

9月22日 東神楽老人クラブ一行44名

9月29日 神奈川県公営事務所 小管課長他2名来場

10月4日 埼玉県深谷市市議員一行10名来場

10月18日 岐阜県地方競馬組合 宗宮次長他1名来場

11月23日 北海道畜産会宇野事務局長

3、三升家勝二北見から生放送

若手落語家三升家勝二師匠が、四月二十六日午後二時三〇分〜三時までのHBCサタデースペシャル「これがラジオだ」の全道生放送の司会者で来場、競馬場内



で委員長やらファンに軽妙なタッチでインタビュー、ばんえいの面白さを充分に電波に乗せてくれた。馬券も結構楽しんで、第八レース一七七の本命六二〇円を買ってニコニコ顔でした。

4、大好評、北見競馬ファンルーム

経営の合理化に伴い、払戻所をスタンド内に移設したため空家となった旧払戻所をファンの休憩所に改修した。

広々とした室内に、無料湯茶接待コーナー、場内放送用テレビ、ゆったりしたロビーチェア一二十四脚と長椅子十五脚、暖房設備、ゴロ寝もできる二十畳敷のタミコーナー、子供用のファミコン一台とパソコン二台等を設置し、ファンサービスを図った。日本一大家族連の多い北



見競馬場なので、暖かくてゆったりできるファンルームは大好評を得た。でき得れば馬券も売ってもらえないかとの要望がかなりあったようだ。

#### 5、スタンド防寒施設の完成

北見競馬場は雪の少ない所なので最終回の競馬を引受ける場合がどうしても多くなる。本年度も十二月十六日までの師走開催なので、ファンサービスの一環として防寒施設が十月に完成した。スタンド北東側の椅子席の一部を、走路面と側面及び天井をガラス張りに改修したが、日差しが良く入り温室の様に暖かいと大変好評であった。

#### 6、内田靖夫氏の油絵個展



本会初代事務局長（昭和四十三年〜四十九年）であった内田靖夫氏の「馬と風景」油絵個展が、春の北見競馬場ファンルームと、夏の岩見沢競馬場ばんえい競馬資料展示室で開かれた。五号から二〇号程度の力作約二〇点が展示されましたが、競馬場内で最初に開かれた馬を主体とした個展なので、人気は上々、数多くのファンが熱心に観賞していた。

#### 7、六十年地全協の表彰

地方競馬全国協会の表彰規程に基づく厩舎関係者の表彰が、四月二十六日北見競馬場で古谷理事来場の下に行われた。

優秀賞 調教騎手 長沢豊秋

優秀賞 騎乗騎手 金山明彦

きゆう務員賞 梶館重人

#### 8、新人夏井騎手の活躍

本年度の新人騎手は三名、その中で一番活躍したのがばんえい騎手では数少ないサウスポールのルーキー夏井功騎手で、年間五四七戦六九勝、昭和五十八年の新人藤本匠騎手の五三勝のレコードを大中に更新した。

一日の勝鞍も、五月十七日四戦三勝二着一回の連対率一〇〇%、六月五日六戦三勝、六月二十八日六戦四勝着外なしの新人騎手としてのレコードを樹立した。

新人騎手年間勝利度数としては、明確なデータ把握はしていないが、地方競馬全国ベストテンには入れる好成绩ではなかろうか。二年目が正念場の年、驕ることなく素直に伸びてほしい。

#### 9、旭川ばんえいファミリー館開設



ビッコ達の人気は最高であった。

#### 10、乗用車のプレゼント

九月二十八日の旭川競馬場で第十七回旭王冠賞競走があったが、その一着馬の子想を官製ハガキに記入して応募し、正解者の中から抽選で一名様に、オートラマフェスティバがプレゼントされた。

ばんえい競馬では、乗用車のプレゼント

とは初のケースで前人気は上々、応募数六七五〇枚、正解者数七七八名で見事に幸運を射とめた方は、旭川市の小敷沢一裕氏でした。なお抽選ではずれた方の中から五〇名様に「キングロー号」の写真入りテレホンカードが記念賞としてプレゼントされた。

#### 11、ばんえい競馬資料展示室の開設

岩見沢競馬場一三〇号発売所一棟が、ばんえい競馬資料展示室に生れ変わり、七月六日国兼岩見沢市長の手でテープカット



トされた。室内には、ばんえいの歴史を物語る古い競走用具や木製そりに第一号型旧鉄製競走用そり等が展示され、また数多くのパネルや古いポスター、名馬の写真、馬の切手等が壁面一杯に掲示され、

多くのファンが馬券購入の合間をみて珍しげに見学していた。

## 12、金山騎手一五〇勝達成

ばんえい競馬のスタージョッキー金山明彦騎手が、七月二十七日岩見沢競馬場でばんえい史上初の一五〇勝を達成した。昭和四十四年五月五日にヤマトオー



ザ号で初騎乗初勝利を飾って以来、通算八五四戦目のヒカルゲンサー号で快勝、十八年目で一五〇勝の大記録を樹立した。騎手生命の永いばんえい競馬ではまだ三十四才の金山騎手はこれからである。二〇〇勝も楽にこえ、どこまでも記録を伸ばしてくれるか大いに期待されるどころである。

## 13、佐良直美さんの誘導馬



八月一日ファン人気投票の重賞競走ポブラ賞の誘導馬に、歌手佐良直美さんが颯爽と騎乗してファンの前に現れた。黒のシルクハットに黒いダブルの乗馬服と黒長靴、白絹のマフラーに白い乗馬ズボンと白手袋、白と黒でピシッと決めた乗馬姿は見事なものでした。

乗馬好きの彼女は、岩見沢で開催中の北海道二十一世紀博覧会に出演中の合間をみつけて、わざわざ競馬場に足をのばして協力してくれたものです。

## 14、キントロー号一億円達成

ばんえい競馬の春からの大きな話題が二つあった。一つは金山騎手の一五〇勝達成、もう一つはキントロー号の一億円突破のばんえい史上初のビックニュースであった。

スであった。七月二十七日金山騎手は一五〇勝を達成、一ヶ月後の八月二十四日キントロー号は岩見沢記念に優勝し、見事一億円を突破することができた。

五十二年五月五日の子供の日が誕生日なので、誰からも愛されそして力持になれるようにとキントローの名前がつけられた。三才四才時代は大型の片鱗を見せるところはなかったが、五才になり傲然頭角を現し十一戦八勝でオープン馬の地位を固め、七才で農水大臣賞競走を初めて制覇して名馬ともなり、その後九才十才と大臣賞を連覇するなど、かつての名牝キヨヒメ号の大臣賞三勝の大記録に対レコードとなった。

三才から十才まで八年間で一〇二戦三三勝、岩見沢記念三勝、旭シルバークップ三連勝等の重賞競走を十四勝し、総取得賞金額は一億一六七二万円に達する大記録を樹立して本年度で引退することになった。

## 15、スクーター五台の寄贈

キントロー号の馬主尾ヶ瀬庄五郎氏に、八月十五日岩見沢競馬三才青雲賞競走に、副賞としてスクーター一台を寄贈されたが、その後八月二十四日岩見沢記念競走でキントロー号が一億円を突破したので、その記念として各競馬場に一台づつスクーターを寄贈、長い間キントロー号に声援をおくってくれたファンに対し感謝の意を表したいと抽選でスクーターのプレゼントをした。



16、全道祭典ばんば二才馬決勝大会

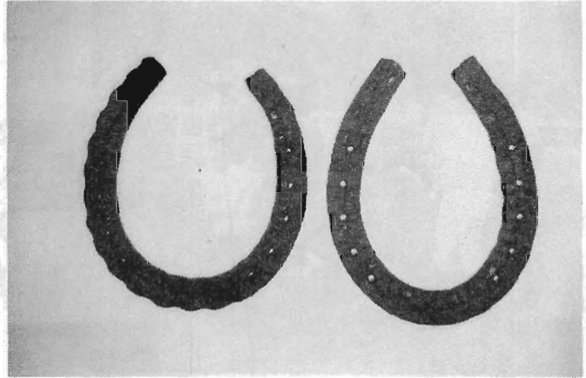
十月二十六日と二十七日の二日間、帯広競馬場でアトラクションとして北海道鞍用馬振興対策協議会が主催で、道内の五大馬産地区（十勝・釧路・網走・根室・上川）から、各地区の予選を勝抜いてきた代表馬各二頭（雄雌）計二〇頭が帯広



に集合、雄と雌の二組にわかれ、本道初の二才馬アトラクションレースとして本番さながらの力が入った競走が実施された。次代を背負う各地区の代表馬だけあって八〇kgを超える立派な馬格のものもあり、ファンと各地区応援団の熱い声援をうけていた。優勝馬は雄組釧路産シベチヤオー号、雌組根室産アイシユン号であった。

17、冬の競馬はスパイクOK

北海道の車は冬になればスパイクタイ



ヤが常識だが、今冬の競馬は初めてスパイク（キザミ鉄）が認められた。

十二月の北見競馬は零下十五〜十六度の寒波と少い乍積雪もあるため、走路及び通路でのスリップ事故が多発していたが、十一月二十九日から特殊なキザミ蹄鉄の装着を全馬に義務づけ、公正競馬と調教中の事故防止を図ったが、その成果は上々で一件の事故もなかった。

18、師走競馬は寒かった

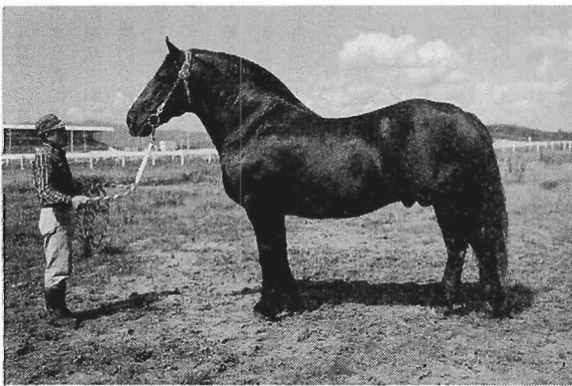
北見競馬の最終日は経験のない十二月十六日。北見地方は積雪が少くかつ遅いので無理すれば十二月中旬まで開催できるが寒波は厳しい。馬場の表面は凍結す

るのでロータリーで粉砕するが、馬場一面に拳大の砂の塊が川原の様に敷つめる有様、ハローをかける度にレースに支障ない程度まで徐々に砕けるが心配の連続でした。

第六回と第七回の十二日間で、マイナス二〇度以上はマイナス五・三度が一日あっただけで、残る十一日間は、マイナス一〇度以下が五日間、十三度以下が四日間、十五度以下が二日間で、最低気温はマイナス十六・二度であった。

19、一億円馬キントロー号種雄馬に

ばんば競馬史上初の一億円馬キントロー号は、十二月十四日引退馬レースの螢の光賞競走を最後に十才で引退したが、十勝の幕別町で第二の人生を種雄馬とし



て歩むことになった。購買価格は四千万円（推定）とのこと、第二の一億円馬誕生に頑張ってもらいたい。

20、キントロー号NHKのスターに  
NHK北見支局の企画でばんば競馬を取材した「ばんば馬力走。オホーツク・男たちの大地」のタイトルで、一月十六日夜八時から四十五分番組のNHK特集で競馬場観客関係者の生活を全国ネットで放映された。

一億円馬キントロー号を主役に、華主演はヤマト号、馬に命をかける男たちが鍛え、執念と夢を託した馬の対決。と言うことで厩舎の男たちと家族の生活、調教風景、レースの実況等々を織り混ぜた男のロマンを描くすばらしい作品であった。好評で一月二十四日土曜日にも再放送された。なお、ヤマト号は十二月二十三日北見競馬場で残念乍病死してしまつた。合掌祈冥福。

※ 本会に録画テープ（ベータ及びVHS）がありますので申込あればお貸しいたします。

# 北海道ばんえい種の夢

北海道市営競馬協議会

## 参与鈴木一彦

ばんえい競馬は、昭和二十一年公布の地方競馬法施行規則第九条で、「競走の種類は、駈歩（現在の平地競走）、速歩、障害、ばんえいの四種類とする」と定められ、昭和二十二年十月馬匹組合連合会の主催で、旧旭川競馬場において二日間開催されたのが公式競馬として馬券を売った最初の競馬であり、以来早くも四十年を経過した。

昭和二十三年九月新競馬法の発足で地方競馬は公営となり、道営競馬がばんえい競走を開催することになったが、昭和二十八年から市営競馬の開催が認められ、競馬場所在市である旭川、帯広、北見、岩見沢の四市でばんえい競馬が開催されるようになった。

昭和四十年頃までは、セミプロ時代が続き、馬主兼調教師兼騎手兼厩務員の一人四役の時代であり、馬も少く農耕や運搬を兼務の競走馬が主力であった。

昭和四十一年に道営競馬がばんえい競走を廃止し、市営競馬がばんえいを専門に開催するようになってから、施行体制も改善充実されプロ化に向って急速に進

展し、現在の近代ばんえいに脱皮することができた。

### （最近のばんえい競走馬）

最近のばんえい競走馬の種類は、重種の純粋品種は減少の一途を辿り、半血種の（鞍型）が主力となってきた。

昭和六十一年度三才馬二〇四頭のうちベルシユロン（含ベル系）二六頭、半血種一七八頭、アル（含アル系）〇で、五年前に比較すれば、ベルは約半数の二五頭減、アルは六頭減である。

これは、本道における馬産が永年にわたり雑種繁殖が行われ、ばんえい競馬に適した鞍型半血種の繁殖用種雄馬と種雌馬が、ばんえい競走馬生産の主力となっているからである。

三才馬二〇四頭の血統を三代前まで調査すると、ベルシユロンの血液が入っている馬が最も多くて九五%、次はアルトンが六九%であり、この二種類の血液が複雑に混入して鞍型半血種が生産されている。昭和四十七年からベルジャン、クライスデールの血液が入り、六十年から

はアルデンネ種が入ってきた。

### （本道馬産の推移）

北海道における農用馬改良の進んできた道を振り返ってみると、日清戦争以来軍馬の生産が主目的で改良が進められ、国防上改良を促進すること余りに急であり、多種多様の海外改良品種が錯綜に供用されたため、本道産馬の雑種性と言うものは諸外国にも見られないものであり、短期間における雑種繁殖の強度なものと云われている。

終戦後は、食糧増産と産業用使役馬の造成を目標に特に品種に拘ることなく生産されてきたが、農業の機械化と都市のトラクタの普及で昭和三十年代から馬の需要が激減し、近年はばんえい競走用と産肉用を目的に鞍型半血種として大型馬の生産が続けられている。

### （ベルシユロンの造成）

フランス北西部のベルシユ地方が原産地である。八世紀にツールの戦場で敗れたムーア人の持馬であったアラビヤ馬と、フランダース地方の大型の土産馬が交配され、さらに十二世紀には十字軍の凱旋戦士が獲得してきた多数のアラブ種雄馬がアラブ血液の注入に貢献し、その後も時々アラブ種が輸入されていたと言われている。十七世紀の初期にルパン種馬所に繋養された二頭の芦毛のアラブ種雄馬は、小型ベルシユロンの貴化に特に功績大なるものがあり、一説には大型化され

たアラブであると言う者もあった。その後アーロンネやアルトンの血液が濃厚に入り、東洋種的な貴化された大型馬となった。芦毛が圧倒的に多いのはアラブの血液が濃厚に入っているからである。

### （ブルトン種の造成）

フランス西方に突き出ているアルターニユ半島の産である。ブルトンの原種馬は、稍大型の北部、小型の山岳地、東洋種的な南部と各々異なる体型であった。外国産馬の血液が相当混入しており、ベルシユロン種と同様に、ムーア人や十字軍のアラブ種雄馬が交配されている。中部のランゴン種馬所が十七世紀の初期に設置され、アラブと南部産アルトン（軽い馬）が多数繋養されていたが、一八五〇年頃から北部ではベルシユロン等の血液が入り大型化（トレーアルトン）が進み、他の地方ではノーフォークトロッターが交雑されて中型のポスチエアルトンが作り出された。現在のアルトンは、アルデンネやアーロンネの血液が入り総体的に大型化されたので、トレーとポスチエの区分は特に認めるべき差がなくなった。

### （サラブレッドの造成）

人間の作った生きた芸術品と言われるサラブレッドは、一口で言えば「英国原産馬にアラブ血液が濃厚に混じって造成された馬」となる。

今から三百年以上昔の英国の生産者は、遺伝学的に純粋な品種として造られたア

ラブに目を向け、十七世紀半から百年間に約二〇〇頭のアラビヤ馬を輸入したが、 $\frac{1}{2}$ がアラブで残るはアラブに血縁的に近い品種のバルグとトルコであった。改良の初期はアラビヤ馬による異系交配（雑種繁殖）であったが、改良が進むに従い競馬という能力検定機関によってふるいをかけ、優秀なものを選び劣等なもの人為的に淘汰し、強度の同系交配を長年月にわたり繰返すことにより固定した品種を造成することに成功した。

サラブレットの三大基根である

一、ダーレー、アラビアン

二、ビヤレー、チュルク

三、ゴドルフィン、アラビアン（又はバルブ）の三頭はみなアラビヤ馬であり、サラブレットの血統を牡系系統によってさかのばれば、これらの三頭のうちのいずれかの一頭に達するといわれている。

### （改良種の固定）

前述のとおり、北海道農用馬生産に関係の深いベルシユロン及びブルトン種の造成経過を見るに、両種共に改良の第一段階に於てアラビヤ馬の血液が濃厚に入り、その後も度々アラブの輸入を試み、またお互に大型化の為に血液の混入を図って現在の種類に固定された。純血種と言われるサラブレットの改良も最初はアラビヤ馬から始まり、軽い馬から重い馬まで世界の主な改良種の造成に、アラビヤ馬の血液は厚薄の差こそあれ重要な型で貢献している。

もともと馬の種類というものは、動物界の一種の内の一種にすぎると言われている。従って変種間の異系交配により新しい変種を造ることは可能なことであるが、変種としての種類の固定化には、早いもので五〜六〇年遅いものは数世紀も必要である。

改良種と言われるどの種類でも、短期間に造成できたものは一つもなく、一つの集団の中から改良目的に合った良い系統を見つけて出し、反対に悪い系統を除去するために計画的淘汰を行い、長期間にわたる良系統だけの同系交配を重ねることにより、特有の体型と能力を造り上げ種類の固定化をしたものである。

### （ばんえい競走馬の変遷）

過去におけるばんえい競走馬の種類別傾向を見るに、

昭和四十年代までは、ベルシユロン及びベルシユロン系で外国産種雄馬を父にもった馬が半数を占め、オナシス、ゴジエール、ベルヴオンシエー、ウルバン、オアオン等の産駒が成績の上位を占めていた時代であった。

昭和五十年代に入ってから、輸入馬の二世が種雄馬として活躍した時代に入り、

ベル、タンブーの仔 楓朝  
ベル、ロツシーニの仔 二世ロツシーニ  
ブル、アンパレルの仔 鉄鯉  
の三頭で、三才馬種雄馬ランキングの上位一〜三位を競り合っていた。

昭和五十三年からは、新しい種類のベルジャン二頭（ジャンデユマレイ、マルゼンストロングホース）の産駒が、半血種として好成績をあげだした。

昭和五十四年には、競走経歴種雄馬の半血種タカラコマが驚異的好成績で台頭し、六十年迄連続七年間三才馬ランキングの一〜二位を確保する新記録を樹立した。この好成績に刺激され「ダービー馬はダービー馬から」の競走馬生産の基本に目覚めた生産者は、競走経歴種雄馬重視の時代に入した。

昭和五十七年からは、競走経歴馬の半血種タカラコマ、昭和六十年からは、ブル系キタノテンリュウがランキング上位に進出してきた。

最近の種雄馬をみるに、玉石混合郡雄割換の戦国時代の様相を呈してきた。

昭和四十六年以降五年毎の三才馬種類別出頭数は、次の表のとおりである。  
最近では、純粋種が減少し、特にブルトンはすっかり混血されて消滅してしまつた。反面、半血種は八七・三%と大巾に増加し、十五年前と比較すれば隔世の感がある。

三才馬の馬名登録馬の父馬で競走経歴のある種雄馬は、昭和四十八年迄は半血種のカチサカエ一頭であったが、五十二年迄は三頭、五十四年から十七頭に増加したが、五十六年からは急激に増加の一途を辿り、現在は九十五頭増加した。その内訳はベル十頭、ベル系十頭、ブル系四頭、半血種七十一頭で約 $\frac{1}{2}$ は半血種

合計	ベル系	ブル系	半血種	年
頭 46	0	9	37	46
131	(0)	(6.9)	(37.4)	(55.7)
頭 51	1	11	36	51
170	(0.6)	(6.5)	(21.2)	(71.8)
頭 55	1	6	51	55
205	(0.5)	(2.9)	(24.9)	(71.7)
頭 61	0	0	26	61
204	(0)	(0)	(13.7)	(87.3)

に占められ、今後も益々増加の傾向にあるが、問題が無いわけではない。

問題点としては、生産者は安易に種雄馬を作り過ぎることである。「血統が二流でも馬格が大きいから」また「競走馬としては赤字なので種雄馬で稼ごうか」等の理由で、当然淘汰の対象とすべき馬を種雄馬としてしまう。これは非常に危険なことであって、十数年前まではばんえい競馬の能力検査に不合格となつた三流馬が種雄馬となり、厩馬（肉馬）の生産に励んだ時代に逆戻りすることになるからである。

### （これからのばんえい競走馬）

ここ十数年の短期間に、ばんえい競走馬は急激な変化をみせた。

第一に、馬格の大型化である。  
昭和六十一年の馬体重の平均を十五年前と比較すれば、三才馬で九十五kg増の八八三kg、四才以上で一三五kg増の九六五kgまで増大した。

三才馬の測尺は、体高一六七・二cm、胸囲二二四・〇cm、管囲二五・五cmで、六才馬三十二頭の測尺ではあるが、体高一七〇・九cm、胸囲二三六・一cm、管囲二六・三cmとかなり大型化してきた。

第二に、体長の伸びが良くなったことである。

昔からよく聞く話であるが、「共進会の上位馬はさっぱり走らない」と言うことである。共進会の昔の審査基準に合格する恰好の良い馬は、ばんえい競馬では稍力不足の感があり、稍胴長の馬の方が成績が良い様である。

最近の共進会の審査基準は、ばんえい競走馬を対象とした基準に変わりつつあり、体長も重要な審査対象となったことは大変喜ばしいことである。

三才馬の体長率は平均一一〇・五、四才以上は一一二・四であり、オープン上位で活躍中の日号は一一五・五の高率であった。

第三に、血統が異種交配による雑種繁殖の時代に入ったことである。

能力検定の場として競馬があるが、競馬場でその能力を試しばんえい競馬に適した体型でかつ競走能力のある馬を繁殖種雄馬と種雌馬に残し、能力のない馬は淘汰をしなければならぬ時代に入った。幸い馬は肉資源として利用価値が高いので能力不足の馬は淘汰の一手段として肉用に活用すべきである。

これからのばんえい競走馬の生産は、数種類の血液が混入し雑種化した競走馬

の中から、ばんえい競走に適した鞍型半血種を選び出し、それら半血種間の同系交配を続けることによりばんえい競馬に最も適した新品種として種の固定を図り、人間の作った力を象徴する芸術品として「北海道ばんえい種」を造成してみたいものである。

### 農用種雄馬(ばんえい馬)の購買配置

地方競馬全国協会の補助に係るばんえい競走馬からの種雄馬購買は、十二月十七日北見競馬場で実施された。  
売却希望の三〇頭の申込みをとりまとめ、八月二〇日、岩見沢競馬場で予備選抜を行い、対象馬を十三頭にしぼり精液

検査を実施した。  
購買当日は、対象馬十三頭のうち、精液検査に異状のない十二頭の出場馬を、入念に検査し購買馬を選定した。  
購買馬ならびに配置先は次のとおりである。

### 昭和61年度購買農用種雄馬名簿(ばんえい)

配置番号 登録番号	馬名 (旧馬名)	品 種 毛 色	生 年 産 地	血 統 { 父 母	体高	胸囲	管囲	購 買 価 格 配 置 先
					cm	cm	cm	
会61-6 S-716	タカラハナ (宝花)	半血 (鞍) 青毛	昭52 豊頃町	重半 中半	タカラ 梅	コ 花	166 242 26.0 1,004	550万円 釧路農協連
会61-7 S-717	カイリューザン (勝栄)	半血 (鞍) 鹿毛	昭54 大樹町	重半 中半	タカラ 初	コ 春	168 237 27.5 987	450万円 十勝農協連
会61-8 S-718	ドウナンシンザン (新梅)	半血 (鞍) 鹿毛	昭52 上ノ国町	ベル系 重系	新 初	宝 梅	168 229 26.0 964	500万円 十勝農協連
会61-9 S-719	ワカタイショウ (第二ベルジャン)	半血 (鞍) 青毛	昭52 森別町	ベル ベル	ジャンデ イデユメ	マレイ 八世	174 235 29.0 1,018	550万円 ホクレン農協連 北見支所
会61-10 S-720	モコトウンリュウ (早手)	半血 (鞍) 青毛	昭56 上士幌町	半血 フル系	タカラハヤ 姫	ア 錦	169 231 27.0 987	450万円 ホクレン農協連 稚内支所
会61-11 S-721	ミサワオー (トカチオー)	半血 (鞍) 栗毛	昭52 浦幌町	フル系 ベル系	栄 庵	山 宝	172 234 27.5 1,057	500万円 ホクレン農協連 函館支所

# 一五〇〇勝達成にあたって

## 騎乗騎手

### 金山明彦

まず最初に、私にとって昭和六十一年と云う年は、通算勝利が千五百勝と云う大きな記録が達成出来たと共に、ばんえい競馬史上初の総取得賞金が一億円を超えた、名馬キンタロー号に一年間騎乗でき、加えて農林水産大臣賞典といふばんえい競馬最大のビッグレースをキンタロー号で制し、キンタロー号の引退に花を添える事が出来たと云う事、これらが最大の喜びでした。

昭和四十四年の初騎乗以来昨年まで、数多くの競走馬に騎乗した中でも、初勝利をもたらせてくれたヤマトオーザ号、私が初めて農林水産大臣賞典を制したカツタロー号、又現在種雄馬として二世が活躍しているハクリュウ号と、想

い出深い数多くの名馬の中でも、キンタロー号は、最も印象深い馬になると思います。

八年間と云う長い競走経歴の中で、数多くのビッグレースに挑み、優勝し、十才となった昨年まで健康で、尚且つ馬が若々しく本当に素直な賢い馬でした。

又、レースに於いても、馬自体がレースを覚えており、あの馬に教えられた事も多々あったのです。

此の先、キンタロー号のような馬に出会えるかどうか分りませんが、出来る事ならキンタロー号を超える馬を育成、調教し作りあげたいと考えています。

又、私が千五百勝と云う大きな記録を達成出

来たと云う事は、ひとえに厩舎関係者の皆様の協力と応援があればこそ成し得た記録なのです。

私自身も若い頃と違い、馬へのアタリも和らかく乱暴でなくなるよう心掛けてきたつもりで、比れについては、レースに於いて、騎手としての制裁が少なくなった事で納得しています。

若い頃は、ただがむしやらに馬を追い続けて、ゴールまでもたす事しか考えていなかったものでした。

更に調教に於いても、ムチでがむしやらに馬を叩き、悪い癖までも叩いて直そうとし、そういう事が重なり、馬へのアタリが乱暴だと評された時期もありました。

しかし年々、他の騎手、調教師の方々の良い面を研究し、又それを取り入れる事によって、馬をなだめたり、時には騙したりしながら馬の能力を最大限にひき出そうとする調教法へと変わって来たのだと思います。

そうした調教の変化も、近年やつと実を結び始め、関係者の方々の目も、少しづつではあるが変わって来ました。

昨年、ある方に騎乗のフォームが少し変わったなと言われた事があります。

やはり、若い頃のように、ただがむしやらに馬をゴールまで保たすのではなく、馬の能力を

ためながらゴールまで、保たそうと騎乗法を変え、そのように騎乗している事がフォームの变化という事に繋がっているのだと思います。

此の頃では、若い騎手達の技術も向上し、勉強になる事も多々あり常に研究している次第です。

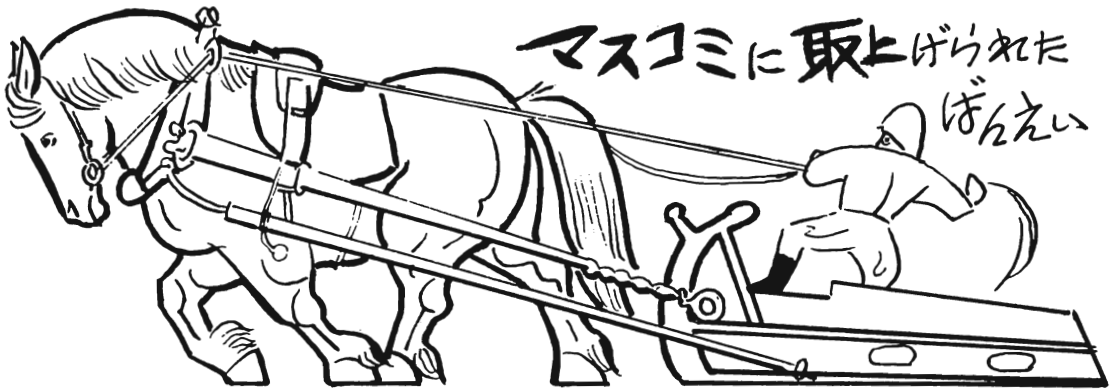
今後も、騎手として皆様方に信頼され、愛され、一つ一つの騎乗を大事にして好成績に繋がるよう努力していきたいと思っています。

今後の抱負としては、更なる記録の更新、又技術の向上に努め、騎手としての自覚を正し、若い騎手達の手本となるように努力していきたいと考えています。

最後に、この先も記録に倣る事なく、努力し、精進していきますので、競馬関係者の方々、今後ともよろしくお願い申し上げます。



年 度	騎乗回数	1 着	2 着	3 着	4 着	5 着	着外	取 得 賞 金	備 考
昭和44年	89	10	8	8	10	7	46	821,000 円	
45年	83	19	4	12	10	11	27	1,847,000	
46年	174	25	18	37	18	15	61	6,086,000	リーディング第5位
47年	167	30	18	23	14	14	68	5,740,000	
48年	382	76	59	54	28	39	126	22,338,000	リーディング第1位
49年	557	120	94	78	67	54	144	54,989,500	
50年	496	102	85	71	49	48	141	63,002,500	
51年	526	109	84	59	62	53	159	70,837,000	リーディング第1位
52年	571	100	83	79	47	70	192	76,794,500	リーディング第1位
53年	549	100	78	69	65	62	175	77,904,000	
54年	579	109	78	81	67	52	192	95,206,000	リーディング第1位
55年	574	117	74	91	61	70	171	124,560,000	リーディング第1位
56年	605	65	84	69	70	77	240	84,984,000	
57年	700	116	99	82	84	69	250	112,929,500	リーディング第2位
58年	699	118	79	84	62	76	280	106,447,000	リーディング第2位
59年	745	114	106	84	86	68	287	88,886,000	リーディング第1位
60年	727	128	107	83	71	61	277	95,807,500	リーディング第1位
61年	776	122	105	92	76	80	301	106,067,000	リーディング第1位



1、一月七日 NHK・TV

PM六・四〇

この時期になるとテレビは冬季休催期のばんえい調教を見せてくれる。この日は北見競馬場厩舎にいる三才四頭の雪中調教を見せる。四〇センチを越える雪原には三本のコースがついていて、五百キロを乗せての馬そり調教、この時期は馬そりをつけて真直ぐ走れるようにするのが目的だという。

2、一月八日 UHB・TV

PM八・〇〇

これはいわゆるムツゴロウもの。畑正憲氏の主役でインドからチベットへの動物旅行記である。畑さんはインドからチベットの八角街やラサを訪ねて、グライラム十四世に逢ったりする。旅の途中では牛や山羊の大群に巡りあう。或る農家の庭先で倭馬一頭と役牛四頭が診らしい脱鞍をやっている。刈り取った穀類を道の上に拵けて大きな石のローラーを曳いて回っている。

街には電柱もなく樹木も少ない。背後には二千メートル以上の重畳たる山々が続き、五千メートルの氷河がある。チベット最北の村で畑さんは旅行のひとつの目的である犬に巡り会う。ロパ族が飼う白眼の多いシェパードに似たチベタンマスタワ種だという。

3、一月二〇日 NHK・TV

PM六・四〇

旭川市外農村の調教風景、森の中で丸型そりに重量を積んでの調教である。こ

れは夜八時五〇分からのニュースでも再放送して見せた。この日は氷点下四度でこの地方では極寒とはいわれないが猛吹雪で顔を凍らせる。今年初陣の三才馬に力をつけるためタイヤを組んだ上に三百キロの重量を乗せ、千三百メートルのコースを三周する。これは春の雪どけ季節まで休みなく続けられ、四月の本番にそなえるのだという。

4、一月二十五日 HBC・TV

AM九・三〇

芳村真理レギュラーの「気分はインテリア」

今回はオーストラリアとニュージーランドの馬の旅で、今日本は夏だがむこうは冬、零下四十度以下になると呼吸まで凍り、それが地面に落ち眠くなるという。ニュージーランドの南端は南極に近い、標高四千メートルの体験を語るかと思えば、こんどはオーストラリアの砂漠地帯を馬で行く。広大な大国の風土を味わう。

5、二月一日 NHK・TV

PM七・五〇

蒙古の牧民新歌を紹介する。中世紀蒙古系の軽種と中間種が混じったような精悍な野生馬が駆けて行く中、妙な中国曲を聞かせる。

6、二月六日 HBC・TV

PM七・一〇

国営音更種畜牧場に生まれた可愛い白毛の仔馬を見せる。多くの白馬(芦毛馬)は生まれた時は黒く、成長するに従って白くなっていくものだが、生れ乍らの白

馬は珍らしい。肢の太い頑丈な鞍馬の仔だ。

7、二月十七日 毎日新聞 朝刊

前日十六日に留辺蘂町で行なわれた冬まつりに、かつてばんえいで活躍した馬が、突然暴れ出し、見物客七人が重軽傷を負うという記事が五段抜きで報道された。この前年帯広のばんえいで二勝した出走二十回というつわもの、この九日には札幌雪祭でも同じような事故があり、馬もとんだ不名誉な話題を残した。

8、二月二十四日 NHK・TV

AM七・五〇

今年のばんえい開幕は四月二十六日の北見からだ。北見郊外にある競馬場は昨夜来の降雪で、四十七センチを越す雪で被われている。四月のテストにそなえて三才の調教は一段と激しさを増している。五百キロの重量を積んで深雪の中をこいでひかせる。今年の三才申込みは、七八五頭ありテストにはおそらく六五〇頭の出場があるという。片平調教師は「三才馬でも、もう八五〇キロ位あり、かんじんな基礎的な力づけは今が一番大事」という。ばんえいのテストは馬の生死を賭ける大事。ばんえい競走馬としつ成績をあげ、一生を種雄馬で暮すか、落ちて売られていくかの運命が決まる一大事だ。

9、二月二十五日 NHK・TV

PM六・四五

これも冬調教のひとつ、豊頃町の森力蔵さんは荷櫓のうしろにタイヤをつけそれに重量物を乗せてばんば調教にはげ

む。十勝川の渡し場は結氷して三日目である。キタキツネの出歩く森まで馬を追って行くが、掃りは橇の上に寝ころんで馬にまかせて帰る。馬は迷わず自宅に送ってくれる。

10、二月二十五日 HBC・TV

PM六・二〇

十勝帯広の農耕馬馬市(冬の二才せり)を見せる。買手の客の多くは道内と東北の連中だが、遠く福岡、熊本、大分、長野からも集り、音更の国立牧場の二才馬も出る。出場馬は二五頭、売値は一頭当り四十七万円という。

11、三月六日 NHK・TV

PM一〇・〇〇

この日のシルクロードは、哈密(はみ)市からソ連国境地帯に到る。緑に包まれた山野である。ここで生産される西瓜、胡瓜を含むあらゆる野菜は、トテツもな

く大きく、又有数の馬産地帯でもある。五頭連馬で曳く馬車が早駆けで走ってくる。人々は哈密と、ハミールからゴビ

の砂漠のオアシスに集る。哈密は一九〇〇年前から天山山脈の東の起点で、今も豚肉、野菜、果物の自由市場があり、東北の大軍団が駐屯している。行き交う往來には牛車も見え、牧畜の盛んなことを示している。又、ハリコン湖の湖底に爆薬を仕かけて、硝石を採掘するという一寸風変わりな牧畜民で、ほかに豊富な石炭の露天堀もしており、二頭曳きの牛車で運んでいる。ここは天山北路と南路の岐路になっており、漢時代の烽火台も残っ

ている。そびえるボゴタ連峰は、アルプスのように五五〇〇メートル前後の連山である。ウルムチは美しい街で、空港がありビル街も見える。同じ近代都市化したトルクアンに比し涼しく、農耕に適した広い小麦畑がつづく。秋には車道に収獲物を撒き、車をひいて脱穀するという習慣がある。耕地は三三万ヘクタールに及び、ホップが実っている。この栽培には遠く、オーストラリアから指導員を招き農耕技術を学んでいるという。伊寧(イニン)市は、ハザック族十八万の軽工業街で、工場の中庭には高射砲がそなえ付けられ飛行禁止区域となっている。ソ連との国境が近く、住民はタール族、ウズベク族、満州族、ラナル族、バザック族といずれも牧畜の民である。冬暖夏涼の美しい樹木が斜面に茂り美しい街だ。いづれも遊牧の民であるが、とりわけバザック族は天山の賜である家畜と緑を讃えて楽器をかなでる。黒い尾の白馬が数百頭の軍馬に交じり鍛練されている。

ここには、乗馬で疾走する姑娘を追う馬の競技があり、若者はあらん限りの悪口を娘達に浴びせる。若者が近づくと姑娘は手練の鞭で若者の帽子を引っかけて奪い、絶妙の馬術で逃げまわるのだ。数万人の観衆が見守る前での激しいスポーツ。山にも馬、野にも馬、「天山から駿馬来る」とは中国の例話となっている約千頭の馬が丘を埋める。こうして若者は帽子をとられ抵抗できず、逃げ廻って嫁選びがきまるといふ。冬には、やがて二人

は結ばれる。

12、三月八日 HBC・TV

PM一〇・〇〇

画家ギーギヤンの「タチヒの女」で有名な南海に浮かぶタチヒは多くの群島からなっている。人口は十七万人、清澄な南海の島々は遠浅で大人も子供も、男も女もみなゴーギヤンの画から抜け出してきたような浅黒い皮ふと、顔をさせている。ここでは馬は欠かせない交通機関である。浜には十万羽の海鳥が飛び交い、野生の馬が約五〇〇頭もいる。これは一八五六年チリから移入された馬の子孫である。ここに裸に褌だけの馬狩り名人がいる。足のイレズミはその印である。二人は山から海辺に飛んで行き、ロープを張りめぐらして馬を追いつめ、投げ縄で仕とめる。捕えた馬は白っぽい毛色をしており、タチヒの画に出てくる馬によく似ている。コブラや熱帯植物の繁茂する島と底抜けに明るいタチヒの子供達、巨大なエイや魚群が透明で遠浅の海辺を泳ぎ廻りウワボラ、ヌクヒ、マルケサスの各離島には石神像が建っている。

13、三月十一日 HBC・TV

PM一〇・〇〇

これはエッセイスト椎名誠のシベリア行だが、先に放映した部分以外の集録のようだ。息も凍るといわれる零下五一度のシベリア東部オイシヤン区イディギル河地方を訪れる。極寒の地で人々は力強く生きている。椎名は再び飛行機でヤクーツク空港に降り立ち、バスに乗り込む

が窓は二重になっており、ヤクーツク市のホテルの窓は三重である。室には人間の呼吸で居住霧ができるからだという。ここには、街中に熱湯を送る太いパイプが張りめぐらされ、暖房設備は行き届いている。日の出は十時になるといふ、レナ河の水の厚さは一五〇センチに達し、広大な中州には太くたくましいヤクーツク馬が野生している。午後三時頃には陽も沈み四時には真暗だ。この地方の人達は「ちっとも寒くないよ。」と笑っている。しめった毛皮靴は、凍るとガラスのよう

にこわれてしまふ。広大な針葉樹林は動物の宝庫だ。ヘラ鹿の群が逃げて行く。縄にかかったウサギをとりきたヤクルト人の猟師チエリユーナの家を訪れる。東シベリアの古都イルーツク市には毛皮集結センターがあり、ウサギ毛皮は四ルーブル(千二百円)で売れるという。

ヤクーツク馬は、土さんこをひと廻り大きくしたような馬で、よく肥えており品がある。この地方では欠かせない動物で、乗馬、トロイカ用、馬肉料理、馬血ソーセージ、馬乳バター、チーズ、レバノン

セージなどなど。しかしチエリユーナ家最高の御馳走はレナ河で獲れる白蛙のルイベだといふ。ここからモスクワまでは、バイカルアムール鉄道で八日かかる。

14、三月十六日 NHKラジオ

AM六・四〇

二十五年間、馬の写真を撮りつづけてきた、宮崎県清水康裕氏の話で、始め野



生馬の魅力にとりつかれ放牧林の中に入  
つていくようになった。始めは三〇メー  
トル位に接近して撮るのがやっとだった  
が、馴れるに従い、だんだん近づき今で  
は背中をなでて逃げていかないように  
なった。放牧法がだんだん改善されて、  
今では肥満体の馬が見られるようにな  
った。一年の生活を追ってみると春先は森  
の中も賑やかで取材が多く、仔が生れ、  
やがて母馬に養育がきて、杜同志の喧嘩  
が始まり、春先には出産の季節がやって  
くる。しかし野生の生産を撮ることは、  
すこぶるむづかしく七十数日も頑張った  
ことがあるという。撮り出してから二十  
五年目の春は、これが最後と徹夜して  
撮ったが、暗くても写っていた。忘れら  
れない思い出はたくさんあるが、村の人  
が馴染みの馬の死を知らせてくれた時だ。  
母親が死んだ林の中で、仔馬が悲しそう  
に死体の乳房を吸っていた。なにかしら  
仔馬の眼に涙が見えるような気がして、  
撮るのをすっかり忘れていた。

私は、この仔馬にサビ(淋しい)とつ  
けたが、村人が母馬を埋葬すると山のほ  
うへ走って行ってしまった。捜してみた  
が見つからず、十日目頃に野猿と一諸に  
エサを食べ共同生活をしていた。サビが  
有名になり人間と馴れ合うときかなくな  
り、人々に噛みつき四人が怪我をした。  
その後、山深く生きているようだ。

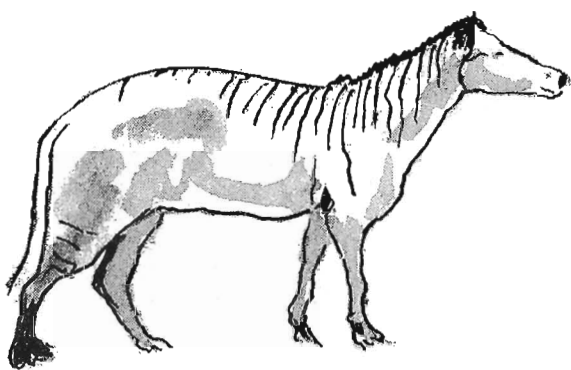
私は馬に名前をつけて覚えるようにし  
た。喧嘩に強い馬にムサシと付けたら、  
若い雄馬が決闘を挑んだのでこれに小次

郎とつけた。

15、三月二十一日 NHK・TV

PM 一・四〇

横浜の馬事文化会館の資料で、ナレ  
ター中川謙三氏が馬の生成、発達を語る。  
約六千万年前に馬の歴史はさかのぼる。  
原始の馬といわれるエオヒップスから現  
代に到る馬の歴史。ある学説ではアメリ  
カ大陸で二千五百万年前に生れ中央アジ  
アに移動し、中国モンゴルで繁殖し、更  
に欧州、中近東へ移動し、近代のアラビ  
ア地方で改良された優秀な砂漠馬が生ま  
れたという。アラビア馬は温順、伶俐、  
精悍、機敏、堅牢、スピードを兼ね備え  
た優秀馬で、サラブレッドにも重ばん馬  
の改良にも役立った。



16、三月二十三日 NHK・TV

PM 九・一〇

中国最大の仏教聖地吾台山の深訪。  
戦後新中国が生まれたが、厳しい宗教  
管理は行われておらず、聖地を訪れる信  
者は多い。このあたりの交通の便はロバ  
である。吾台山は三蔵法師の開いた霊場  
だが、法師はよく馬に乗っていた。今日  
は馬一頭の商談が成立し、千三百元だ  
という。値段は我國の馬商さん達がよくや  
るように袖の下で指を握り合って決める。  
台懐鎮にある仏舍利を納めた塔へ行く  
には一〇八段の階段を登る。この地は大  
きな仏教街だ。壮重な仏教音楽もこの吾  
台山が発祥の地といわれ、一二二人の若  
い僧侶が熱心に教習している。大きな靈  
境樹の下には三蔵法師の墓石がある。

17、三月二十三日 HBC・TV

AM 九・二〇

朝の森本モーニングショーEYEは、  
この朝、青森の馬力レースを、豊原レポ  
ーターとの対話で紹介する。三才で既に  
七五〇キロをこえる松風号に目をつけた  
豊原レポーターが乗りこなすという筋がき。  
北海道のばんえいと違って青森では一  
人が馬の口を持ち、一人が轡に乗って手  
綱をさばくという二人ばん馬だが、これ  
は明治の頃アメリカ人を農業指導員とし  
て招いた歴史が大きな影響を与えている。  
つまり本州は二人馬耕だが、本道は一人  
馬耕である。

現代はすべて機械化されて馬耕も見ら  
れなくなったが、その技術習慣はばんえ

い競争に伝えられている。

松風号の調教は朝二時から連日行なわ  
れ、いよいよ高山稲荷神社祭の當日、祭  
典奉納馬力大会が行なわれる。豊原レポ  
ーターは高い石段を登って必勝祈願をす  
る。うまくいくか心配だが、最早や「や  
るっきゃない」と覚悟を決める。午前二  
時に起きて馬をトラックに積み込み、馬  
好きな大勢の人達が神社に御参りし、会  
場に集まってきて大変な人出だ。

一騎八〇キロの重量物三個をのせて一  
周二〇〇米の馬場を駆ける。途中二箇所  
に山がある。レースは二才馬から始まり、  
松風号は三才レースに出る。口持ちは奥  
さん、女の口持ちは初めてで、乗り手は  
素人の豊原レポーターというので観衆の  
興味を集めるが、豊原レポーターの不安  
はつのである。

白旗が振られスタート!! いざさか頼  
りない腰つきだが松風号は先頭を切り、  
障害もトップでこえ、そのまま一着でゴ  
ールイン/思わず安堵と感激で豊原レポ  
ーターの目に涙が光り、馬主の親方が駆  
けよって固い握手「みんな負けてくれた  
のではないか」と思ったが、親方に「ほ  
んとにジョンズ(上手)だよ」とほめら  
れ耳を疑う。「松風君、有難う。豊原レ  
ポーターは何度もお礼をいって松風号の  
首をなでる。

18、四月五日 HBC・TV

PM 一〇・〇〇

「大草原の少女、みゆきちゃん」  
厳冬の知床で酪農を営む農家の娘、み

ゆきちゃんは、たくましく生きる。ある時は見事に肥えた土さん馬に乗って、ある時は妹と一緒にスキーに乗って片道一時間半もかかる小学校にかよっている。父親は一日のほとんどを牛舎の労働に追われている。みゆきさんは小学校の



休みの時しか手伝えないが、日曜日には雪上車を運転して汚れた殺ワラをすてに行く働き者だ。正月には、お母さんが髪を結ってくれ、めつきり可愛さを増が、妹と雪中放牧に牛を追っていく仕事は欠かさない。

知床の猛烈な吹雪の日に流水が割れ、四頭の鹿が溺れもがいているのを見付け、息せき切って父親に報告する。父親は漁師と舟を出して救け出すが、既におそく四頭は冷たくなって引き上げられる。

死体は氷上を引っぱって行から葬られ

るが、みゆきちゃんの顔は暗い。来年はたつた一人の卒業生となる。春には仔牛が生れ、月の夜に蛙の卵は孵化する。空には尾白鷺が飛ぶ知床の詩情豊かな作。

19、四月十三日 NHK・TV

AM七・四〇

この日も北見競馬場で降りしきる雪中で、片平調教師のテスト受験馬の調教ぶりを見せる。冬期間を通じて毎日激しい訓練を重ねてきた三才馬もいよいよ今日がテストだ。片平厩舎では今年十一頭の受験馬がいる。片平さんはかつて三〇〇勝をあげた名騎手で、既に五〇頭余の馬を競走に出している。今年の合格率は四頭に一頭という。この可否で受験馬一生の明暗が決まるのだ。早朝の雪中訓練は激しく、烈帛の気合があたりをこたまして、馬体から汗の蒸気が蒙蒙とたちのぼる。

20、四月十六日 NHK・TV

AM七・四〇

この放送は同じ時間の後半を全国向けにしている。今年北見で開幕して十六日北見で終幕となる全二回一三二日というばんえい史上初の長丁場となっている。この日は北見市の坂井農務部次長が世界に類のない巨大馬の重量速度競走を解説する。北見の厩舎は七五〇頭を収容し、今年初冬開催のためスタンドに防寒工事を施し、ファンへの待遇を考慮しているという。

21、四月十九日 NHK・TV

AM七・五〇

大野町に二十三才の老馬がいる。人間でいえば九十二才の老土さん馬である。今は仕事もやらず、時折子供達を乗せて可愛がられている。レポーターの外山愛子さんも乗って畑道を歩いてみるがその従順さに感心する。

22、四月二十四日 NHK・TV

PM六・四〇

札幌市で観光馬車をひく金太号は今年十一才、人間なら四四才、開業前は三百キロの荷物をつけてトレーニングにはげむ、大型のベルシロン種でばんえいにも出走したことがあるという。今年の観光馬車は二階がある。コースは大通一周二キロを三十分位で廻り昨年は約二万人の客が楽しんだという。蹄鉄のかわりに革靴をはかせている。主人公は春谷光雄さん(41)で金太号は鼻を鳴らして甘え、主人公の頬をなめ回す。四月二十六日が開業の日

23、五月十一日 NHK・TV

PM九・〇〇

特集番組「大黄河」はこの日大河の馬渡りと、大草原の競馬を見せる。

この日若者達は舟で大河を渡ると、舟と一諸に泳いだ馬に乗って走り去る。

羊皮の符はヤンピーファーズといって黄河になくってはならない渡河舟である。若者達はプールの街で二頭の土地馬を連れてくる。体型は中間種だ、二人はこれに乗って漢方の妙薬ターペー(大黃)を求めて山岳地帯に入る。チベットには香料

をとる古来有名な麝香鹿、薬草雪蓮、漢方薬で有名なチベット医院などを紹介する。

そこには八一家族が放牧生活を営む大集落があり、多数の馬二五〇頭の羊群、一八〇頭のヤクなど大移動を始める。移動先が決まると大野に板敷きのパウを建て主として馬の生産に励んで暮らしたる。

ポロ布のようなタルチカー(旗)がはためき、海拔四千メートルの甘肅省の山々を漂うように黄河は流れ、馬が死ねば馬葬が行われる。赤衣の住民七〇三人が神を呼ぶ。神を招く男は奇妙な笛を吹き鳴らす活佛だという。やがて禿鷹の群が天空を舞い、屍を怨ら喰いつくす、いわば鳥葬である。大草原ではしばしばそうした光景や、チベット族と群馬に出逢う。

子供達が楽しみにしているのは大草原の競馬大会で、殿前で競馬の画を刷ったチラシを作り大会を知らせる。当日はヤクの乳で厄拂いをしてから競馬を始める。少年騎手達はコースのない大草原を黄河の流れに沿って上から下へ向って馬を走らせる。一レース十頭位づつ猛烈と疾走する。流れに逆らわれないという不文律があるからだ。

そのあたりから黄河の両岸のきり立つ野抓峡にかかる。その距離は約千キロ、激流下りの壮观を見せる。

24、五月二十日 NHK・TV

AM八・〇〇

鹿児島の自然公園にいる「とから馬」

に今年七頭の仔が生まれた。市では三〇頭に増殖して、その保存につとめたいとされている。

25、五月二十九日 NHK・TV

AM七・四〇

土産馬愛好家で有名な大野町の本村義雄さんは松前林務署の発案で、国有林の笹狩りに土産馬の放牧を引受ける。笹には栄養分があり土産馬は肥る。広大な山林は笹退治で一石二鳥の効果を祈る。牝馬が十五頭おり、今年中に牡馬も入れ将来三十頭に殖やす計画だという。林務署長さんも監視を厳にして熊害などを警戒し、実験を成功させて土さんご署員を殖やしたいという。

26、五月三十日 NHK・TV

AM八・〇五

稲作に精出す老農夫の佐々木さんは、水田のしろかきに愛馬を使う。愛馬は十七才、人間でいえば六十八才の老馬である。良くいうことをきき馴れたしろかきに精を出してくれる。「人間の言葉が良く判るんだな」と機械を使わぬ佐々木さん、今どき珍らしい農場のしろかきを見せてくれる。

27、六月一日 毎日新聞

「大穴馬券二万三四三〇円誤審」

「写真判定で3着を逆に」の五段抜きの大見出しで、五月三十一日中央阪神競馬場の事故を報道、競馬執行上の最大ミスである誤判は、以前青森競輪や、札幌進駐軍競馬などでもあり、常に大騒擾事件に発展し、主催者の大損害を招いている。

それは誤判による着順の中者（公表済の所謂誤った払戻金）と真正な着順の中者（訂正して計算された払戻金）の相方にそれぞれの払戻しをしなければおさまらず、その上誤判公表を信じて馬券を捨ててしまったファンへの不満が爆発する。

今回は最終決定まで三時間位かかったというが、事実の判定と対策には時間もかかるから、さすが中央はミスはミスとして正規の馬券を替っているファンには相手とも支払することに決めたので大きな紛争にはならずにおさまったようである。しかし不的中として既に捨ててしまった人もあり、払戻しをして残額があった場合は福祉施設に寄付するということでケリがついたようだ。

28、六月二十三日 NHK・TV

AM七・四〇

この放送では後半約一分を全国放送に切りかえている。今や住宅街の真ただ中にある帯広競馬場が十四日から行なわれるばんえいにはファン期待の二つの話題がある。その一つは大量の海砂を入れて砂を深くしたこと、昨年九四二七万円の賞金と農林水産大臣賞を獲得した強豪キントローの活躍だ。

29、六月二十五日 HBC・TV

PM八・〇〇

好評番組「わくわく動物ランド」ではこの日宮崎のみさき馬に係る挿話を取り上げる。土さんこと同じようにみさき馬は日本在来馬として有名だ。野生馬には他の動物達と同じように糞尿臭を草木な

どにかけて仲間の行動範囲を知らせ合う習性があるがみさき馬にもそれがみられる。ときにはおもわぬ惨事がおきて母馬が崖から落ちて死んでしまう。そばには悲しげに仔馬がよりそっていたが、やがて栄養失調になっていく。地元の人達が優しい叱をつれてくると仔馬はむさぼるように乳房をまさぐる。

やがて小母さん馬には仔が生まれて両側から乳をのむ。ある日おかしな黒馬が近づいてくる、母さん馬はそれを避けるように三頭の仔を連れて林の中に入っていく。そこで黒馬はチャンス到来とばかりおどりかかってくる、交尾の機会をねらっていたのだが、アッサリと母に蹴飛ばされて退散する。

30、七月十一日 毎日新聞

AM七・四〇

五面トップ四段抜きの記事「末脚よし、道管予想外の売上げ、ばんえい話題多くファン魅了」の大見出しで、好調すべり出しの道内地方競馬の幸先を報道する。七月に入ったばかり、シーズンはまだ半分も終らないこの時期に幸先きを祝うような記事は関係者を喜ばせたか、苦笑させたか。ばんえい好調の理由を、ばんえい初の一億円馬誕生、金山騎手一五〇〇勝に挑戦という興味の上に六月帯広は雨なし、土日一レース増、前年比十一％増、場外発売好調などを、本年好転の兆として報じている。

31、七月二十三日 HBC・TV

AM七・四〇

ばんえい岩見沢に移る。ここでもキ

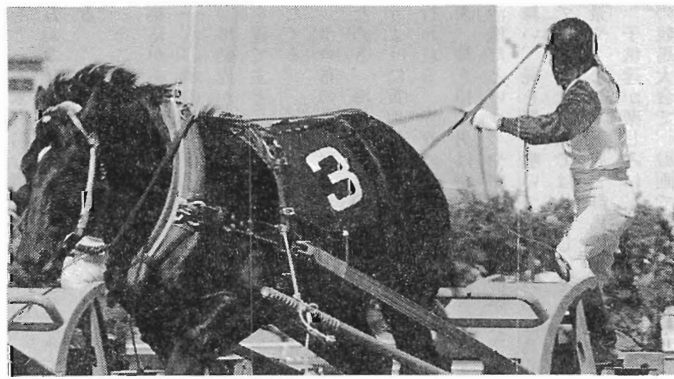
ントローは人気を中心だ。毎日朝三時に起きて暗い中の調教、尾ヶ頼厩舎の朝飼の桶をのぞくと乾草と藜表がドツサリ、その上ににんくと人蔘、蜂ミツがまじっている。一トン以上の巨体とエネルギーを支える万点の栄養だ。

32、八月九日 NHK・TV

AM八・一〇

岩見沢では二一世紀博が開かれており、本州からの入場者も少なくない。

八月九日ばんえいのホープ金山剛彦騎手は八月九日のレースで念願の一五〇〇勝をあげる。この日第二障害を二番手で



越で、最後のコース半ばで先頭に立ちそのまま一着でゴールインした。

金山騎手はアナウンサーの間に答えて「第二障害を越たとき、これで勝てたと思った。ほんとうに感激深い、家畜商の子に生まれて子供の時から馬の中で育った。小学五年のとき村の競馬に出て豆騎手といわれ人気物になり、みんな応援してくれた。その上一着となり皆がほめてくれたのがよかった。つらかったのは出場が少ない時で、少ないと勝負に馴れずうまくない。その頃の若い者は本村さん山田さんなど三、四人しかいなかった。今調教師になっている人達が中心だった。お前は「馬に荒い」といわれたが、どうしても自分の追い方は馬に対して手綱さばきが荒く、始めの頃は蛇行斜行して三年間位毎年処分を受けた。

それも自分の駆法が荒いからだといわれたが、どうしてもなおらず、今は自分の型になってしまった。現在は気持も落付き動きもだいぶ柔軟になったと思っているが・・・これからは二千勝を目標にし、五年間位で達成できないかと思っています」という。アナウンサーは「大いに活躍してみんなを楽しませてさい」と結ぶ。

33、八月十二日 NHK・TV

PM六・三〇

鎌倉の村林季花子さんは七、八年前から北辺の孤島ユリ島に放牧されている野生馬の魅力にとりつかれ、夏休みを利用してやってくる。切り立つ断崖の上は

ゆるやかな起伏となっており、野草は生い茂り馬は年間放牧だ。この島は夏でも寒い。馬は人を懐しむかのように集ってくる。そばへ来て人間の身体に鼻をすりよせてくる馬もある、村林さんは天幕を張って島と馬を撮り続ける。

34、八月十四日 毎日新聞

これはばんえいではないが耳よりな話、全国的な売上不振の対策として取沙たされているナイター競馬が本格的に考えだされた。地方競馬の頂点にある大井で八月十三日その試験が行われたという。

名付けて「トウインクル（きらめき）レース」というのだそうだ。ナイター競馬は既にアメリカ、オーストラリアで、けい競速歩競走に限り八百米の円形馬場で行なわれている。平地競走は千六百米以上の競走が多く、施設その他の事情でナイターは困難かと思われるが、二百米の直線コースでやるばんえいならば、或いは考えられるかもしれない。

続いて毎日新聞は八月三十一日夜全国初のナイター競馬が大井で行なわれたことを報じている。午後七時すぎカクテル光線に一四〇〇米のコースがクッキリと浮かび上り、その日の第八レース出走の十四頭が一団となって第四コーナーを廻ると正面スタンドから「ワーア」と大観

声が上がリ、八五七〇円の穴に近い穴が出た。場内は東京湾からの涼風が肌に心地よく、人気は上々、売上も五割増の十億七千万円を記録したという。大井ではナイターを更に続けるといわ

れる。

35、八月二十五日 NHKラジオ

AM六・一〇

早朝のNHKラジオでも、九五戦して一億円以上を獲得したキンタローと、金山騎手の一五〇〇勝を報ずる。

36、九月八日 NHK・TV

AM七・五〇

富士登山で名を馳せた北海道和種馬（土さん馬）が、今度は道南の駒ヶ岳を征服する。北海道和種馬保存協会道南支部は、道央会員の応援を得て全部で三十人、仔馬を含めて四十頭が集って、石ころだらけの山道を軽々と登って行く、一時は九万頭もいたという土産馬も現在は千五百頭に減っている。しかもそれは愛好者達の愛馬心で維持されているのだ。

この日は森田みゆきレポーターとカメラマンが徒歩でついていく、協会長の長田光弘さんは「現在の会員は約二百名、農家や畜産業の人が多いが、中には先生やお医者さん、船長さんもあり、こよなく土さんこを愛し、本道開拓に貢献した功績とその素朴さに限りない愛着を感じている人達である。山頂の涼風を頬に受け馬にエサを与えて握りめしを頬ばると限りない満足感が湧く。

37、九月二十二日 NHK・TV

PM六・〇〇

いま好評のNHK「いま6」でも土さんこ駒ヶ岳登山を取上げる。日本伝来の日本馬に、とから馬、みさき馬、木曾馬などがおり土さんこもその一つ。この日

は土さんこ一頭をスタジオに連れてきて紹介する。この馬の体高は一三〇センチより大きくはならない。

今回登山した駒ヶ岳は大沼公園を眼下に見下ろす秀峰で一三三メートルあり、山頂には馬の背と呼ばれる稜線があって馬にはゆかりの深い山である。

この山に登山する人は年々多く子連れ四〇頭の土さんこ登山に目を見張る。

粗野な顔と素朴な姿の小格馬は力強く、山を登っていくが足には蹄鉄はなく裸足で人をのせていくほどの力持ちである。土さん馬の歩様は側対歩で、片側の前後肢から同時に動き、小走りで駆けこの歩様をデミチといつて、馬上で酒を飲んでもこぼれないというほど安定している、丸太十本といえは約百貫、これを背に積んで石ころの道も細い道も急坂も、粗食に甘んじて不平もいわず人になつきよく働く。土さんこへの愛着は限りない。

38、九月二十八日 HBC・TV

AM一〇・〇〇

朝のレギュラー番組「世界めぐり」はこの日中国内蒙古自治区の工業都市から五〇キロ、ラマ教の学修寺「五当廟」を見せるが、この時間の圧巻は蒙古大草原でくり抜ける祭典と大競馬だ。開会には先づ若い男女がくり抜ける騎馬大行進があり、催し物は角力あり踊りあり、牛の品評会があり曲芸サーカスがある。

売店では羊肉や馬乳を売っている。何といつても圧巻は草原三〇キロの大競馬、十三才の少年から八十才の老人ま

で、二五〇頭が一勢にスタートする、物凄い大草原の疾走。これには馬達者の青年が伴走し、危険にそなえて馬車も走る。概ね一時間を走り抜くがゴールで倒れる馬もいる。ほとんどが鞍なしの裸馬なのは驚かされる。優勝者には馬一頭が贈られるという。

39、十月九日 NHK・TV

PM七・〇〇

これは毎年行われる少年の早駆馬、神社の参道を古式騎乗のいでたもよろしく、全力で走り、社殿までの坂を駆け登る。一週間前から練習に親も子も全力を傾注する。息子を騎手に出す母親の岡本千秋さんは神棚のある上座敷に起居して馬と祭りに集中する。お爺さんの古市さんも昔からの体験を教える。落馬すればそのときは凶作だといわれ、その信心と猛練習は真剣そのものだ。最近では保険をかけて出る者もいるという。十月十日の本番は朝四時に起き人馬共川に入って身をきよめ無事を祈る。この日の出走は十二頭、参道の両側には約一万人の観衆が集った。愛媛県今治市の勇壮な早駆詣り。

40、十月九日 NHK・TV

AM七・五〇

大阪住吉神社の神馬はやはり白馬でなければならぬ。しかし真白な馬はそう滅多に見付かるものではない。依頼を受けた馬事協会では白羽の矢を恵山で生まれた土産馬の仔に当てる。この当才仔は「サメ」と名づけられ、美しく柔和な顔

の可愛い仔馬だ。神社の関係者四人が見に来たがすっかり気に入ってしまう。

母馬にピッタリよりそう幼馬に鞍をつけ一ヶ月余の乗馬調教で大阪に連れて行くのだという。土さんこの神馬は珍らしい。

41、十月十二日 NHK・TV

PM九・〇〇

特集番組「大黄河第五集オールドスの興亡」さきにも紹介した内蒙古自治区の包頭市は人口七万の工業都市だが、その西方に広がるオールドと砂漠との間を大黄河が流れ、東方には大草原で牧畜が営まれている。そこには往時から騎馬民族が住み、この日は黄埃を巻上げての大速歩レースを見せる。

42、十月十九日 HBC・TV

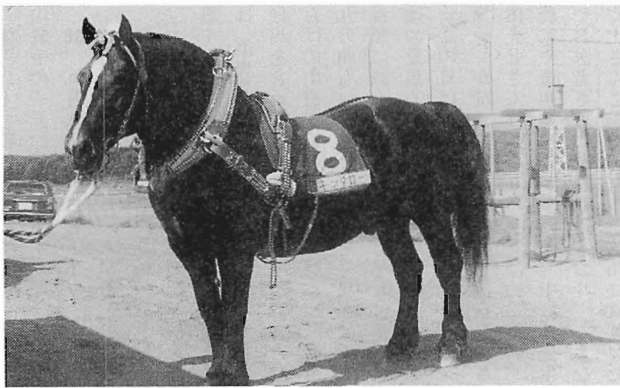
AM一〇・〇〇

古くから優駿の産地であり、秀でた馬術を誇るハンガリーの牧童が、スカートのような華麗な郷土服を着て巧みな馬術を見せる。疾走するハンガリー馬二頭を併走させての立乗り、猛火の飛越、座り乗り、五人乗り、ムチの合図で倒出したリ横取したり変幼自在の馬術を見せ、最後に数百の大騎馬軍がでんでに旗をなびかせて大斜面を下りてくる、そのあとを三十騎ばかりの団が砂埃を巻上げて走り去る、そして美しい衣装で着飾った少女達は素晴らしく美しく、衰愁を帯びた馬頭琴を奏でながら別れる。

43、十二月七日 NHK・TV

PM八・五〇

今や全国的な人気を呼んだ、ばんえいの強豪キングローがおそらく最後の出走となろうといわれる北見農林水産大臣賞競走はこの日の第九レースで行なわれる。この日の入場者は平日より千人以上多い約五千人、このレースは本邦最高のレースといわれる日本ダービーのようにノーハンデで行われるが、特にNHKではこの稀有の強豪馬を中心に後日特集番組を制作したので記録は後述に譲る。



44、十二月十一日 NHK・TV

PM七・三〇

北海道ばんえい競馬は今や世界一の巨馬を集めての競馬として有名になった。

現在一トン以上の馬が一〇八頭もいる。その点正に世界一ですと北見市の坂井農務部長はいう。そのばんえいの最大レースとして有名な農林水産大臣賞は、前記したように十二月七日に行なわれ、期待どおりばんえいのスーパースターキングローが制覇した。その日気温は零下十五度、スタートでは雪が降り出している。NHK北見放送局では北海道ばんえいを特集して明年一月中旬全国放送するといふ。

45、十二月十四日 NHK・TV

PM六・〇〇

「北海道スペシャル北見」担当は室町アナ、今年最後の北見ばんえいを見せる。北見出身の林正男調教師は激しい早朝の調教から帰ってくる。馬も人も全身から立ち昇る汗で見えない位だ。話題は強豪キングローになるが、将来対抗できる馬が四頭もいると林調教師は朗らかだ。冬期早朝の調教はつらいが皆馬好きの連中だから平気だよ、障害こえの上手下手が勝負をきめるネと馬談議はつづく。

46、十二月二十三日 NHK・TV

PM七・三〇

なんとも驚くべき荒っぽいお祭りもあるものだ、と感嘆するのは高治町の「おまん」と祭りと「おまん」とは「お馬塔」の意で、ひろく北陸・東海・名古屋の信者たちが愛馬をつれて集まる。同町春日神社に伝わる二百年の伝統を誇る祭りという。当神社境内に一周百米余の円形柵が設けられ、その中を馬は全速力でグルグ

ル走り廻り、騎士たちが馬の首に飛びつき一緒に走って走るので。決して乗らず手綱を握らず一緒に走るところに他には見られない冒険と興味がある。全力で駆る馬にはどうしても人間はついて行けず皆振り飛ばされてしまう。どれだけ長く



首っ玉についておれるか見どころなのである。一ヶ月も特訓を受ける二十六才の杉浦君、八百キロの牡馬を出す岩月さん、出場前にコーヒーをのませ、狂ったように走る重ばん馬に振り飛ばされてころげ飛ぶ。岩月さんは五十才の経験豊かなつわもので、愛馬は輪眼(白目の多い眼)

だが元気で乗り手をふり飛ばす。蹄鉄打ちの平井さんも同じ五十才だが、持ち馬のアカネ号は飛び上って平井さんを振り切る。四十六才の稲葉さんの宮吉号はかつてタービーで二着だったというサラブレット、一番速くこの馬場を九秒で回り、勇敢に飛びつく稲葉さんを地上に投げつけてしまう。等々変るがわる馬に飛びつくが完全に一周する者はほとんどいない。終りが近づくと子供達が一ヶ月練習したという「おまん空の唄」を披露する。いつも今年限りでやめようという話が出るが、十月がくると他県へ行っている人も帰ってきて又開催になるといふ。六十一年の出場者なんと約六百人、そのうち怪我人は九十二名(打撲三十四、脳震とう十一、骨折三、入院七、その他三十七)と五十嵐アナウンサーは報告する。

47、十二月三十日 HBC・TV

PM五・三〇

さきに知床の冬を馬で小学校に通うみゆきちゃんの放送を報じたがこの日はそれを再放送、そのあとのテレポーツベシャル六十一年度内スポーツニュースでは、ばんえいの強豪キンタローを取上げ

48、62一月五日 NHK・TV

PM六・五〇

ばんえい史上初の長期開催が、十二月十六日に終わったというのに、もう猛烈な調教が始まる、待機していた三才馬は少々太りすぎ、当分は身体をしめる調教から始めるという。

49、62一月七日 一月十三日 毎日新聞  
これまで三原山のカルデラ内で馬に観光客を乗せ生計を立ててきた乗馬組合員四十三人はカルデラ内が立入り禁止となつて途方にくれ、馬も売るしかないと思悟を決めたが、このことが紙に出ると東京都内の愛馬グループや、市民の間に救援の輪が拡がり、年末、大島の馬を救う会(青島啓子代表)が結成され、街頭募金や鈴木知事への助成を陳情したりした。馬も当分火山灰除去作業で急場をしのぎ、噴火がおさまれば又客を運ぶ仕事につくといふ。

50、62一月十六日 NHK・TV

PM八・〇〇

一年の報道をしめくくるように、この日NHKテレビは夜八時から四五分間の特集番組でばんえいを取上げる。題して「ばんば力走、オホーツク、男たちの大地・宿命の対決・一トンの巨大馬」制作はさきにオホーツクの流水にとざされた五隻の大型漁船を救出するドラマを制作して全国に放送し、絶讃を博したNHK北見支局の制作スタッフである。

この放送のとらえかたにはひとつの特徴が感ぜられる。世界に類例のない巨大馬を七百頭も集め独特の競走を作り上げた馬と人と北海道そのものである。

この放送には馬券や売上のことが出てこない。ばんえい競走は北海道の風土はぐくんだ土のにおいのする競馬、体重一トン、サラブレット競走馬の二倍を越す巨大な馬が鉄ざりをひき、地響をたて

て走る。現在北海道では七百頭の競走ばん馬が四十九の厩舎で飼われ、馬に打ち込む男とその家族ら四百人と共に独特な社会を作っている。人と馬は四月から十二月まで競馬の開かれる町を転職、長屋式厩舎で人馬の共同生活を続ける、手塩にかけた馬に執念と夢をかける人々を描きながら、北海道の風土と土のかおりを伝える。一年間人気絶頂にあつたキンタローは既に待望の一億円受賞を岩見沢で果し、今年を最後に定年引退する。ばんえい最高のレース農林水産大臣賞は十二月七日北見で行なわれる。初冬の北見は本年最後のばんえい、カメラは空中からの俯瞰撮影で帯広からの馬七百頭人間四百人の大移動を追う。黄と紅に彩られる初冬の平原と、延々とつづく直線道路を行くトラック群を写し出して北海道の風物を描く。北見農林水産大臣賞の話題の中心をキンタローにおき、これに挑戦する三頭の駿馬とその調教師を描く。出走馬十頭は今迄の獲得賞金額ランク第十位までの馬に限られ、既に九頭は決定しているが、ヤマト(片平厩舎)マルトクイン(長野厩舎)はその合否の線上にある。

爺さん馬から三代目まできたヤマトは自分が生産した逸駿だ、何とかキンタローに一矢報いたいがこの夏右肩を痛め、快復したものの一抹の不安があるという。マルトクインは長野調教師夫妻の愛情を一身に受けている。

奥さんは「娘がみんな嫁に行ってしまうので、今はこれが一番可愛い」と蜂

密水を飲ませるところを撮らえる。

一トン以上の巨大馬は奥さんを母親のように慕って鼻をすいよせてくる。

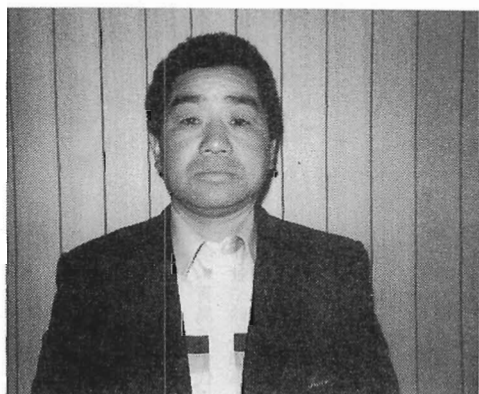
めず馬が強豪揃いの大レースに勝つのは容易でないが、やはり出場権獲得のレースでは二着に敗れる。一方ヤマトは他馬を引き離して楽勝し、キントローと戦うチャンスを獲得する。

期待の農林水産大臣賞競走は予定通り十二月七日に行なわれたが、あいにく雷が降ってくる、重馬場得意のキントローには不利だが、他馬には有利となる。

ヤマトは第一障害を先行するが、第二障害登坂からゴールまでの直線では大混戦となり4番6番などが先行して7番のキントローは苦戦するが、ゴール前6番を抜いて遂に昨年に引続き第一着となり、引退の花道を飾った。二着は6番のカミシホロトップ。9番ヤマトは六着に敗退した。二十二回一三二日の長期ばんえいは終り画面は美しい北見厩舎の夜景を見ける。

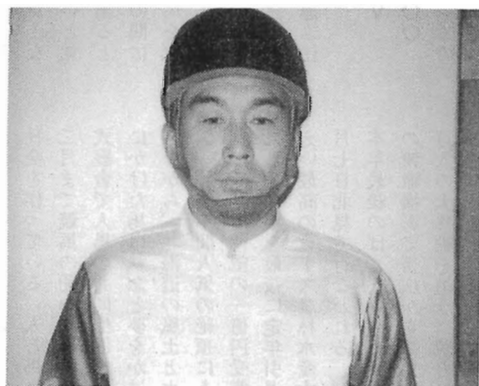
## リーディングトレーナー・ジョッキー

昭和61年度 優秀騎手表彰



### ☆リーディングトレーナー

- 第1位 松井 浩
- 第2位 定塚 俊男
- 第3位 水上 勲
- 第4位 岡田 定一
- 第5位 西 邑 春夫



### ☆リーディングジョッキー

- 第1位 金山 明彦
- 第2位 藤本 匠
- 第3位 千葉 均
- 第4位 岩本 利春
- 第5位 坂本 東一

# ばんば祭典

本会の馬産奨励事業である祭典(記念)ばんば競走保存奨励事業も年々開催地も増加し、馬産振興に対しての各主催者の努力のほどがうかがえます。今後増々の市営競馬発展のためご協力下さい。

ここに各主催者より送られた終了報告書をもとに各地のバラエティーにとんだ祭典(記念)ばんば競走を紹介いたします。

○第十七回全松山鞍馬競技大会  
一、主催 江差町畜産連絡協議会  
会長 高島秀夫

二、開催日 三月三十日

三、場所 江差町コミュニティセンター  
四、出走頭数 四十二頭

五、競走数 十二レース

六、入場者数 三〇〇名  
七、本会副賞受賞馬 第二琴電  
ベル系 雄二歳

八、馬主 上ノ国町 柳原邦彦

九、明年度開催の予定 三月下旬  
○第十一回北渡島家畜商茅部支部鞍馬  
競技大会

一、主催 北渡島家畜商協同組合茅部支  
部  
支部長 西村忠三郎

二、開催日 五月十一日

三、場所 森町共進会場

四、出走頭数 八十頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 五、〇〇〇名  
七、本会副賞受賞馬 花子号 雌二歳

八、馬主 厚沢部 佐々木正男

九、明年度開催の予定 桜祭りの中

○第三十六回鞍馬競技大会  
一、主催 池田町鞍馬愛好会  
会長 田中弘

二、開催日 六月十五日

三、場所 池田町清見特設会場  
四、出走頭数 五十五頭

五、競走数 二十四レース

六、入場者数 一、六〇〇名

七、本会副賞受賞馬 サカエ号 雌五歳

八、馬主 池田町字信取 阿部孝雄

九、明年度開催の予定 六月十五日  
○夷王山祭り

一、主催 上ノ国鞍馬組合  
組合長 沢口繁春

二、開催日 六月十五日



五、競走数 二十二レース

六、入場者数 四三〇名

七、本会副賞受賞馬 勇姫号 雌二歳

八、馬主 上ノ国町 柳原邦彦

九、明年度開催の予定 九月第二日曜日  
○第十二回豊浦町ばん馬競技大会

一、主催 豊浦町馬産改良同志会  
会長 矢野清志

二、開催日 六月二十二日

三、場所 豊浦町字桜スカンシア広場

四、出走頭数 八十頭

五、競走数 十八レース

六、入場者数 五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ヨシカワトップ号  
雄二歳

八、馬主 石狩町字親舟 吉川竹志

九、明年度開催の予定 六月下旬  
○西胆振ばん馬競技大会

一、主催 西胆振ばん馬競技大会  
大会長 高橋泰雄

二、開催日 七月十三日

三、場所 虻田町家畜センター

四、出走頭数 九十六頭

五、競走数 二十一レース

六、入場者数 八五〇名

七、本会副賞受賞馬 勇姫号 雌二歳

八、馬主 上ノ国町 柳原邦彦

九、明年度開催の予定 七月十二日  
○第四回黒松内町ばん馬競技会

一、主催 黒松内町愛馬同志会  
会長 小林幸作

二、開催日 八月十四日

三、場所 黒松内町家畜共進会場



- 四、出走頭数 七十頭
- 五、競走数 十五レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 初姫号 雌二歳
- 八、馬主 森町 伊藤弥一



九、明年度開催の予定 八月十四日

○第十五回今金町産葉まつり協賛競馬

大会

- 一、主催 今金町連合愛馬会 会長 大越藤夫
- 二、開催日 八月十六日
- 三、場所 今金町 後志利別川河畔
- 四、出走頭数 五十六頭
- 五、競走数 十六レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ヤクモトップ号 雌二歳
- 八、馬主 八雲町 佐藤永治

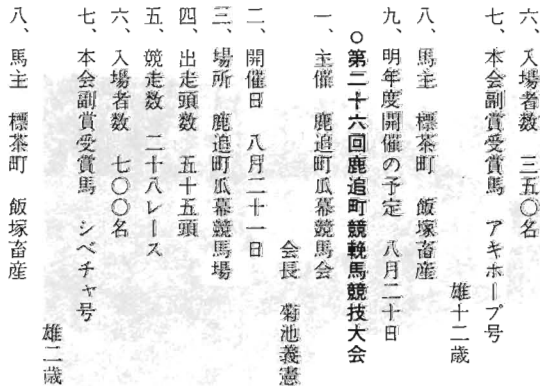
- 九、明年度開催の予定 八月十六日
- 第三十三回長沼相馬神社奉納ばんば
- 大会



一、主催 長沼相馬神社 祭典委員長 広川鉄次

- 二、開催日 八月十七日
- 三、場所 長沼町農村広場
- 四、出走頭数 四十頭
- 五、競走数 十七レース
- 六、入場者数 六五〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキヒメ 雌十歳
- 八、馬主 長沼町 地田政義
- 九、明年度開催の予定 八月十七日
- 第七回浦幌町ばん馬大会
- 一、主催 浦幌町馬産振興協議会 会長 阪口岩夫
- 二、開催日 八月二十日

- 三、場所 浦幌町富特設会場
- 四、出走頭数 五十二頭
- 五、競走数 二十八レース
- 六、入場者数 三五〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキホープ号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 八月二十日
- 第二十六回鹿追町競馬競技大会
- 一、主催 鹿追町瓜幕競馬会 会長 菊池義憲
- 二、開催日 八月二十一日
- 三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
- 四、出走頭数 五十五頭
- 五、競走数 二十八レース
- 六、入場者数 七〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 シベチャ号 雄十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 八月二十一日
- 第十一回標津・中標津連合馬事競技
- 大会



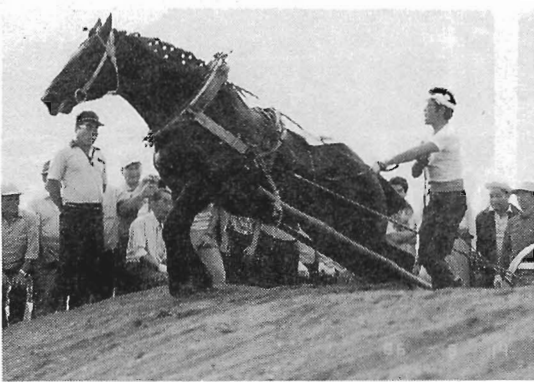
一、主催 標津・中標津地区馬事愛好会 会長 秋山隆男
- 二、開催日 八月三十一日
- 三、場所 中標津町特設会場
- 四、出走頭数 百十七頭
- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 七、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキホープ号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 八月二十三日
- 第九回下川町競曳競技大会
- 一、主催 下川馬産振興協議会 会長 奥村勝馬
- 二、開催日 八月三十一日
- 三、場所 名寄川緑地公園共進広場
- 四、出走頭数 四十九頭



- 一、主催 標津・中標津地区馬事愛好会 会長 秋山隆男
- 二、開催日 八月三十一日
- 三、場所 中標津町特設会場
- 四、出走頭数 百十七頭
- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 七、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキホープ号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 八月二十三日
- 第九回下川町競曳競技大会
- 一、主催 下川馬産振興協議会 会長 奥村勝馬
- 二、開催日 八月三十一日
- 三、場所 名寄川緑地公園共進広場
- 四、出走頭数 四十九頭

- 五、競走数 四十四レース
- 六、入場者数 一、五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ナンプヒメ号 雌七歳
- 八、馬主 下川町上名寄 奥村勝馬
- 九、明年度開催の予定 八月三十日
- 第四十四回秋期鞍馬競技大会
- 一、主催 相馬妙見神社愛馬講 会長 齊藤忠治
- 二、開催日 九月一日
- 三、場所 滝上町鞍馬競技場
- 四、出走頭数 二十九頭
- 五、競走数 二十レース
- 六、入場者数 二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 クイーンペルイオン号 雌十九歳
- 八、馬主 滝上町 結城峯松
- 九、明年度開催の予定 九月一日
- 第七十七回音更町東土幌鞍馬競馬大会
- 一、主催 音更町東土幌鞍馬競馬会 会長 菊地勝一
- 二、開催日 九月二日
- 三、場所 東土幌神社特設会場
- 四、出走頭数 六十頭
- 五、競走数 二十三レース
- 六、入場者数 一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキホーク号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 九月二日
- 第十二回根室市馬事競技大会

- 一、主催 根室市馬事振興会 会長 矢部博之
- 二、開催日 九月七日
- 三、場所 根室市川口馬事公園
- 四、出走頭数 九十三頭
- 五、競走数 二十三レース
- 六、入場者数 五、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アキホープ号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産
- 九、明年度開催の予定 九月二十日
- 第十三回弟子屈町鞍馬競技大会
- 一、主催 弟子屈町馬産振興同志会 会長 阪口麻一
- 二、開催日 九月十四日
- 三、場所 弟子屈町鞍馬会場
- 四、出走頭数 五十一頭



- 五、競走数 十七レース
- 六、入場者数 一、三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 シマノタカラヒメ号 雌四歳
- 八、馬主 弟子屈町 倉田昭八
- 九、明年度開催の予定 九月第二日曜日
- 第十九回足寄町ばんば大会
- 一、主催 足寄町鞍馬協会 会長 尾岸徳雄
- 二、開催日 九月十五日
- 三、場所 足寄町里見ヶ丘
- 四、出走頭数 八十二頭
- 五、競走数 三十二レース
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アラクホープ号 雌十二歳
- 八、馬主 標茶町 飯塚畜産



- 九、明年度開催の予定 九月十五日
- 第九回本別町ばん馬競技大会
- 一、主催 本別町馬事振興会 大会長 山口 悟
- 二、開催日 九月十九日
- 三、場所 本別町農協品評会場
- 四、出走頭数 五十七頭
- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 スナジテンリュウ号 雌三歳
- 八、馬主 本別町 荒木正司
- 九、明年度開催の予定 未定
- 第十二回上土幌町鞍馬競馬大会
- 一、主催 上土幌町鞍馬同好会 会長 西本忠義
- 二、開催日 九月二十日
- 九、明年度開催の予定 九月十五日



- 三、場所 上士幌町鞍馬競技場
- 四、出走頭数 七十三頭
- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 四〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 松の竜号 雄八歳
- 八、馬主 阿寒町 長村豊司
- 九、明年度開催の予定 九月二十日
- 第五回幕別町鞍馬競技大会
- 一、主催 幕別町鞍馬競技大会
- 二、開催日 九月二十一日
- 三、場所 幕別町鞍馬特設会場
- 四、出走頭数 六十一頭
- 五、競走数 二十七レース
- 六、入場者数 八〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 勝姫クイーン 雌二歳
- 八、馬主 幕別町 笹原政清
- 九、明年度開催の予定 九月二十日
- 第二十九回当別町鞍馬競技大会
- 一、主催 当別町鞍馬競技会
- 二、開催日 九月二十三日
- 三、場所 当別町字上当別
- 四、出走頭数 二十一頭
- 五、競走数 十三レース
- 六、入場者数 三三〇名
- 七、本会副賞受賞馬 キクヒメ号 雌十歳
- 八、馬主 札幌市 多田畜産
- 九、明年度開催の予定 八月下旬
- 第十九回佐呂間町鞍馬競技大会
- 一、主催 佐呂間町畜産振興会



- 二、開催日 九月二十六日
- 三、場所 佐呂間町農協畜産センター
- 四、出走頭数 六十三頭
- 五、競走数 二十六レース
- 六、入場者数 一、六〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 サロマイチ号 雌二歳
- 八、馬主 佐呂間町 窪内久義
- 九、明年度開催の予定 実施予定
- 浜中町畜霊祭典競馬鞍馬競技大会
- 一、主催 浜中町畜霊祭典実行委員会
- 二、開催日 十月五日
- 三、場所 浜中市街競馬場
- 四、出走頭数 九十一頭
- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 静竜号 雄二歳
- 八、馬主 浜中町 長沢幸男
- 九、明年度開催の予定 未定
- 第二十一回早来町鞍馬競技大会
- 一、主催 早来町鞍馬同好会
- 二、開催日 十月五日
- 三、場所 早来町新栄特設コース
- 四、出走頭数 三十八頭
- 五、競走数 二十一レース
- 六、入場者数 八五〇名
- 七、本会副賞受賞馬 タダトップ号 雄六歳
- 八、馬主 札幌市 多田運輸
- 九、明年度開催の予定 九月



- 第十三回馬事競技大会
- 一、主催 別海町馬事愛好同志会
- 二、開催日 九月二十、二十一日
- 三、場所 別海町馬事競技場
- 四、出走頭数 二五〇頭
- 五、競走数 三十四レース
- 六、入場者数 二二三、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ネムロアンテン号 雄三歳
- 八、馬主 別海町 大道 実
- 九、明年度開催の予定 九月二十日

定により調教業務の委託を受けた調教騎手に対し、当該競走に係わる調教奨励金を支給する。

(2) 騎乗奨励金

競走に出走した馬の騎乗騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4 着以下
17,000円	13,000円	11,000円	8,500円

3. きゅう務員に関する報償金

(1) きゅう務奨励金

{ 条例第46条(旭川市)  
規則第44条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定

により装鞍所に集合した馬の管理きゅう務員に対し、管理頭数4頭を限度とし次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4 着以下
16,000円	12,000円	10,000円	7,500円

4. 特別報償金

次に該当する馬の馬主、騎手及びきゅう務員に対し、次により支給する。

支給の範囲	特別報償金の種類	支給対象者及び支給額			
		馬主	調教騎手	騎乗騎手	きゅう務員
ア { 条例第33条(旭川市) 規則第31条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、出走投票の結果、制限頭数を超えたため抽選により出走できなくなったとき、又は1競走の出走頭数が6頭以下のため競走が取り止めになった場合。ただし、当該開催において不成立、抽選もれとなった競走以後に当該馬が出走できる競走がある馬は除く。	賞金	当該競走の5着賞金相当額 但し、30,000円を限度とする	—	—	—
	出走手当	1 出走予定目 45,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	12,500円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	8,500円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	7,500円
イ { 条例第49条、第50条、又は第51条(旭川市) 規則第47条、第48条、又は第49条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、競走除外等で同様のため除外(友引)になったとき。	賞金	当該競走の3着賞金相当額	—	—	—
	出走手当	1 出走予定目 45,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	17,000円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	11,000円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	10,000円
ウ { 条例第23条第2項(旭川市) 規則第21条第2項(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により天災その他やむを得ない理由により開催当日に競馬又は競走を取り止めたとき。	賞金	当該競走の5着賞金相当額	—	—	—
	出走手当	1 出走予定目 45,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	12,500円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	8,500円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	7,500円

5. 同着における報償金の支給

着順が確定した馬が同着の場合における報償金については { 規則第10条(旭川市)  
要綱第9条(帯広市及び北見市) } の規定により支給する。

6. 生産者に関する報償金

(1) 生産者賞

競馬番組に定められた重賞競走に出走し、確定した着順が第1着となった馬の生産者に対し、支給する。ただし、当該競走実施日において生存又は現存する生産者とする。

生産者賞	重賞競走の1着賞金の3%相当額
------	-----------------

ア 着順が確定した馬が同着の場合においては、同着となった総頭数で等分した金額を支給する。

7. 報償金に対する納税

ア 騎手に支給する諸報償金については、その10%を主催者が徴収して納税する。

イ 馬主に対し、1回の支払賞金が75万円を超える場合は、下記の算式により主催者が徴収して納税する。

$$\left\{ \text{賞金} - \left( \text{賞金} \times \frac{20}{100} + 60 \text{万円} \right) \right\} \times \frac{10}{100}$$

## 7. 昭和58年度以降に新馬登録をした雌馬の取扱い

昭和58年度以降に新馬登録した雌馬については7歳までばんえい重量を20kg減量し、雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。なお、8歳以降は優偶措置をしない。

## 8. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

# 昭和62年度 {旭川市・帯広市} 地方競馬報償費支給基準

(要旨)

第1条 この基準は {旭川市地方競馬実施条例(以下「条例」という。)  
帯広市及び北見市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)  
岩見沢市地方競馬実施条例施行規則(以下「規則」という。)}

{旭川市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)  
帯広市及び北見市地方競馬実施要綱(以下「要綱」という。)}及び {旭川市、帯広市  
北見市、岩見沢市}

地方競馬番組により開催する地方競馬(市営競馬)に参加した馬の馬主、調教騎手、騎乗騎手、きゅう務員及び生産者に対する報償金の支給に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この基準において、「馬主」、「調教騎手」、「騎乗騎手」、「きゅう務員」とは、

{条例第5条(旭川市)  
規則第4条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}に定める者をいう。

(報償金の種類及び支給額)

第3条 報償金の種類及び支給額は、次のとおりとする。

## 1. 馬主に関する報償金

### (1) 賞金 競走に出走し、

{条例第69条(旭川市)  
規則第67条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}

の規定

により、確定した着順が第1着から第5着までの馬の馬主に対し、競馬番組で示した金額を支給する。

### (2) 出走手当

競走に出走した馬の馬主に対し、1開催1頭につき、次により支給する。但し、当該開催において特別報償の受給対象となった場合は、1出走したものとする。

1 出走馬	45,000円
2 出走目以降1出走につき	10,000円

### (3) 着外手当

競馬番組に定められた重賞及び特別競走に出走し、確定した着順が第6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金300万円以上	100,000円
	1着賞金300万円未満	40,000円
特別競走		25,000円

(4) 輸送手当 開催市毎の連続開催期間内における競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資格のある馬の馬主に対し、1頭につき1回を限度とし下記の金額を支給する。

輸送手当	12,000円
------	---------

## 2. 騎手に関する報償金

### (1) 調教奨励金

ア 競走に出走した馬の調教騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1着	2着	3着	4着以下
26,000円	22,000円	17,000円	12,500円

イ {条例第102条(旭川市)  
規則第99条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}の規

ア 減量騎乗騎手は、数え年30歳以下の騎乗騎手で通算勝利度数30勝未満の者とする。出馬表には△印で表示する。

イ 減量騎乗騎手扱いですでに出走投票された競走については30勝以上となっても減量騎乗騎手と同様の扱いとする。

ウ 減量騎乗騎手は、重賞・特別競走を除きばんえい重量10kg減量する。

## 5. 格 付

取得賞金額（1着～5着までの本賞金）により格付し、年齢別に次のとおりとする。なお、取得賞金は特に記載のない限り前回催までの合計とする。ただし、7歳以下の雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。

### (1) 3 歳

3歳馬のみとし、取得賞金額順に編成する。

### (2) 4・5 歳

4・5歳馬の混合編成とし、通算取得賞金により下記のとおりクラス分けする。なお、通算取得賞金400万円以上の馬は、4歳以上の同額賞金クラスに格付する。

取得賞金	400万円未満	300万円未満	200万円未満	120万円未満
------	---------	---------	---------	---------

### (3) 4 歳以上

4歳馬以上の混合編成とし、昭和59年以降の取得賞金により、下記のとおりクラス分けする。なお、昭和59年以降の取得賞金1,300万円以上の馬をオープンとする。

取得賞金	オープン	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満
------	------	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------

## 6. 負担重量

(1) 騎手重量 騎手重量は75kgとする。

(2) ばんえい重量

ア 一般競走におけるばんえい重量は次表のとおりとする。

格 付	4 歳 以 上							4 ・ 5 歳				3 歳
クラス	オープン	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満	400万円未満	300万円未満	200万円未満	120万円未満	
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	620kg	600kg	580kg	560kg	4月19日～8月25日 500kg 8月29日～10月27日 510kg 11月1日～12月8日 520kg
備 考	※ 番組編成委員が指定した競走（勝入、2回使い、2クラス以上によって編成された競走等）のばんえい重量は別定重量とする。 ※ 4・5歳120万円未満は、7月26日から200万円未満に編入し、10kg減量する。 ※ 3歳は本年取得賞金60万円につき10kg加増する。											

イ 重賞・特別競走におけるばんえい重量は概定番組において基礎重量を発表し、通算取得賞金（昭和59年以降の取得賞金）及び本年取得賞金により加増を行う。

ウ 4・5歳馬で4歳以上に格付された馬は10kg減量する。

エ 3歳及び4歳馬のせん馬は10kg減量する。

オ 7歳以下の雌馬は20kg減量とし、8歳以上の雌馬は10kg減量とする。

## 番組編成要領

旭川市・帯広市  
北見市・岩見沢市

### 1. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1)地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2)軽種および軽半血種以外の馬
- (3)日本国内で生産された馬
- (4)新馬 3歳  
古馬 10歳以下 (ただし、昭和58年度せん馬優遇策に基づきせん馬となった馬は11歳までとする。)
- (5)馬体重 3歳 700kg } 以上の馬  
4歳以上 750kg }
- (6)馬体検査、能力調教検査に合格した馬 (他競馬場において合格した馬を含む)

### 2. 出走の拒否

- (1)こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬
- (2)出走取消をした馬及び競走除外馬 (同枠除外を除く) は、その開催の残余期間
- (3)尋常てい鉄を使用しない馬。ただし、委員長が特に処置を認めた場合はこの限りでない。
- (4)失明馬、片眼の視力が正常でない馬

### 3. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1)1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2)普通競走において、前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3)前項により出走できなかった馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4)出走投票の結果、1競走の頭数が6頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故、疾病等により出走を取り消し又は、競走除外を命じた場合を除く。

### 4. 騎乗の制限及び減量騎乗騎手の取扱い

#### (1)騎乗の制限

ア 騎乗騎手の1日の騎乗回数は6回までとし、連続騎乗できる回数は3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

イ 騎乗を変更した騎乗騎手は、翌日の騎乗を認めない。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

#### (2)減量騎乗騎手の取扱い

## 昭和61年度賞金受賞ランキング

### 3 才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額(円)
1	ギンカップ	半血 テツリュウ	半血 緋姫	牡	3	日高町	密石秀雄	8,720,000
2	チカラトウショウ	ベルジマルゼンストロングホース	半血 朝姫	牡	3	深川市	谷美喜男	7,490,000
3	シャルマン	ベル 第二オデオン	半血 ハクヨウ	牡	3	足寄町	相沢裕子	5,467,000
4	ジーム	ベル ムジーク	ベルルメダブリーヌ	牡	3	帯広市	三井樹雄	5,320,000
5	カツマサオーカン	半血 ハクリュウ	半血 松姫	牝	3	常呂町	馬木定雪	5,052,000
6	スピードエース	半血 マゴロッシーニ	半血 力姫	牝	3	北見市	安田悟	4,992,000
7	テンギク	ベル系 レッドライオン	半血 桜姫	牝	3	津別町	河本信勝	4,487,000
8	ダイコークイン	半血 アサミドリ	半血 ツガルホレ	牝	3	森町	笹川勝弥	3,860,000
9	ゴーンテンリュウ	半血 ゴウカイ	半血 五十二太陽	牡	3	弟子屈町	坂野一弥	3,815,000
10	メイズイリキ	ベル 二世ロッシーニ	ベル系 明朝	牝	3	深川市	高橋悟	3,490,000

### 4・5才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額(円)
1	カネミフロンティア	半血 ゴウカイ	半血 第二栄花	牡	5	中標津町	池田明	6,890,000
2	ヒカルテンリュウ	半血 マツノコトブキ	半血 第二太陽	牡	4	池田町	牧野一	6,784,000
3	ロングボーイ	ベルジマルゼンストロングホース	半血 朝姫	牡	5	深川市	谷美喜男	6,500,000
4	ワールドヒカリ	ベル系 紅兆	半血 ブル姫	牡	5	白糠町	湯村薫	5,473,000
5	ナイスヒメ	ベルジ ジャンデュマレイ	ブル系 ニコトップ	牝	5	士幌町	安村敏美	5,297,000
6	ホマレカップ	ベル 第二オデオン	半血 宝姫	牡	4	足寄町	後藤有弘	5,229,000
7	シゲノフフラワー	半血 シゲノハラ	ベル系 銀山	牝	5	稚内市	梅津二	5,111,000
8	カツハル	半血 イシノシンボル	半血 勝雪	牡	5	弟子屈町	端正行	4,579,000
9	ツキノレデー	ベルジマルゼンストロングホース	ベル系 菊姫	牝	5	早来町	長谷川均	4,478,000
10	クインフェロー	ベルジ ジャンデュマレイ	半血 花姫	牝	5	広島町	安彦勇	4,410,000

### 6才以上

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額(円)
1	キンタロー	ベル 二世ロッシーニ	ベル系 宝玉	牡	10	別海町	糸川一郎	22,450,000
2	カミシホロトップ	ブル 蝶武	中半 勇栄	牝	10	北見市	武田金十郎	12,470,000
3	ロイヤルキング	ブル 銅柑	ベル系 藤花	牡	9	弟子屈町	渡辺三郎	9,930,000
4	キンタイコー	ベル 楓朝	半血 日光	牡	7	上湧別町	笹島清	9,485,000
5	イワイサミ	ベル 菅敬	半血 前進	牡	9	旭川市	岩城米光	8,030,000
6	マルトクイン	ベルジマルゼンストロングホース	ベル系 栗姫	牝	7	新得町	深川繁信	7,115,000
7	ハウエイヒメ	ベルジマルゼンストロングホース	半血 遠軽皿	牝	6	深川市	光富光次	6,094,500
8	タニノヒメリユウ	ベルジマルゼンストロングホース	半血 ミス大輪	牝	6	白老町	谷川恒夫	5,732,000
9	マツノパンサー	半血 タカラコマ	半血 健宝	牡	9	幕別町	東原武夫	5,697,000
10	ハイスピード	ベル ボールル	半血 宝花	牡	9	白糠町	藤田竹蔵	5,460,000



## 昭和61年度種雄馬ランキング

### 3 才

順位	種類	種雄馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	主な産駒
1	ベルジ	ジャンデュマレイ	16	317	40	21,809,500	スーパージャンディ, ヤマサリュウ
2	半血	タカラハヤブサ	17	325	36	19,620,000	ヒメハヤブサ
3	ブル系	キタノテンリュウ	11	214	27	15,975,000	テンショウリ
4	ベルジ	マルゼンストロングホース	8	138	20	14,651,000	チカラトウショウ
5	半血	タカラコマ	13	259	20	14,251,000	タカラレンジャー
6	ベル	二世ロッシーニ	8	162	15	12,915,000	メイズイリキ, ハヤキンショウ
7	半血	ゴウカイ	6	125	17	11,158,000	ゴニテンリュウ, コスモクイーン
8	半血	テツリュウ	5	77	13	11,106,000	ギンカップ
9	半血	富士	6	106	13	8,657,000	アイアンジェム
10	半血	アサミドリ	4	66	10	7,905,000	ダイコークイン

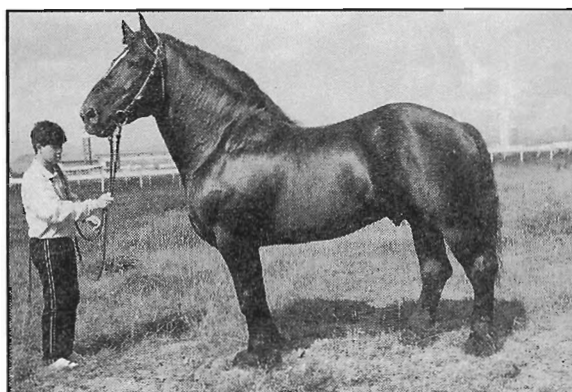
### 4・5才

順位	種類	種雄馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	主な産駒
1	半血	タカラコマ	24	516	54	35,849,000	ダイアナヒメ
2	ベルジ	ジャンデュマレイ	16	322	42	28,834,000	ナイスヒメ
3	半血	タカラハヤブサ	17	346	41	26,205,000	ハヤブサニシキ
4	ベルジ	マルゼンストロングホース	10	200	30	23,239,000	ロングボーイ
5	ベル	二世ロッシーニ	10	210	27	14,253,500	キンパール
6	ブル系	キタノテンリュウ	10	221	22	13,919,500	キタノリュウ
7	ベル	楓朝	8	173	24	11,196,000	ジョンビット
8	ベル	第二オデオン	7	146	12	11,183,000	ホマレカップ
9	半血	ゴウカイ	5	108	10	10,534,000	カネミフロンティア
10	ベル	松の竜	4	99	17	8,958,000	マツノフジ

### 6才以上

順位	種類	種雄馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	主な産駒
1	ベル	二世ロッシーニ	28	568	65	78,119,000	キントロー
2	半血	タカラコマ	35	737	57	58,900,500	マツノバンサー
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	24	528	59	53,218,000	ワカタイショウ
4	ベルジ	マルゼンストロングホース	14	317	53	45,878,000	マルトクイン
5	ベル	楓朝	15	292	28	31,693,000	キントイコー
6	ベル	ポール	8	179	13	19,347,500	ハイスピード
7	ブル	蝶武	2	46	2	14,374,000	カミシホロトップ
8	ブル	ボヌール	5	119	12	12,979,000	アサヒダケ
9	ベル	管敬	2	44	4	12,317,000	イワイサミ
10	ブル	銅柑	3	70	9	12,313,500	ロイヤルキング

## 昭和61年度引退馬（表彰馬）

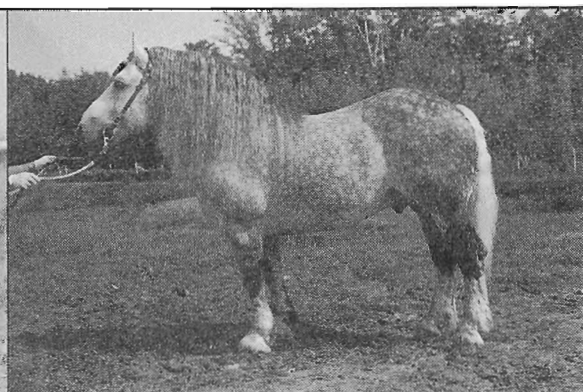


### アサクニ号

1. 生年月日 昭和52年4月28日
2. 生産地 門別町
3. 生産者 上村忠夫
4. 通算成績 148戦17勝
5. 取得賞金額 9,279,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 朝国

— ペル 新松  
— 半血 朝日

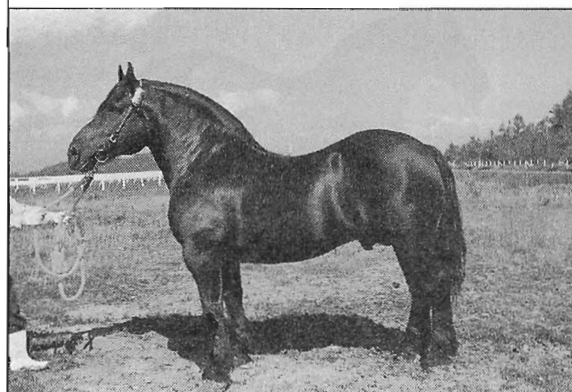


### アサヒダケ号

1. 生年月日 昭和52年4月25日
2. 生産地 士幌町
3. 生産者 木幡一雄
4. 通算成績 159戦26勝
5. 取得賞金額 25,811,000円
6. 性・毛色 牡芦
7. 血統

半血 豊雄

— ブル ボヌール  
— ペル 川旦

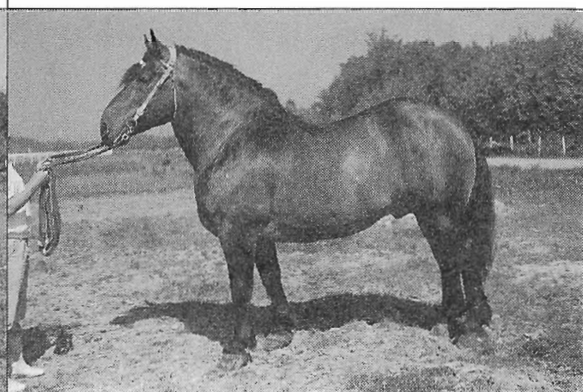


### イデサカエ号

1. 生年月日 昭和52年4月3日
2. 生産地 白糠町
3. 生産者 井出武
4. 通算成績 176戦17勝
5. 取得賞金額 24,668,500円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

ペル系 登是

— ペル ボルール  
— ペル系 是姫

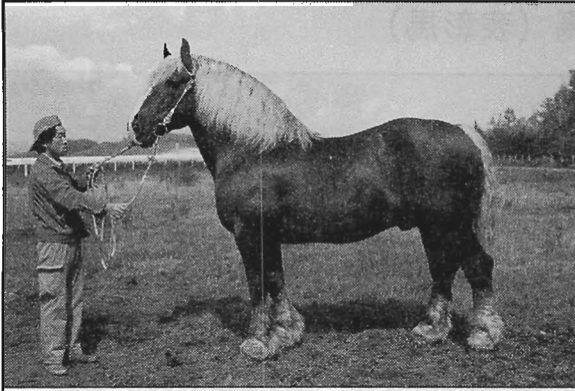


### エリモアラシ号

1. 生年月日 昭和52年4月15日
2. 生産地 静内町
3. 生産者 小池弘
4. 通算成績 152戦18勝
5. 取得賞金額 10,148,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

半血 山飛

— ペル 産日  
— 半血 第二音勝の三

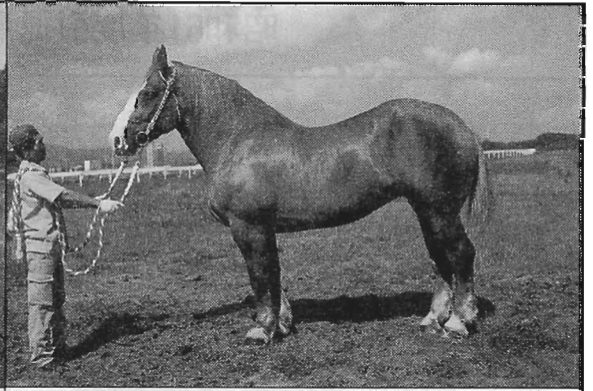


### オーアラシ号

1. 生年月日 昭和52年4月1日
2. 生産地 幕別町
3. 生産者 棚橋吉一
4. 通算成績 144戦12勝
5. 取得賞金額 8,383,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

半血 ベル駒

— ベルジ ジアンデュマレイ  
— 半血 清流

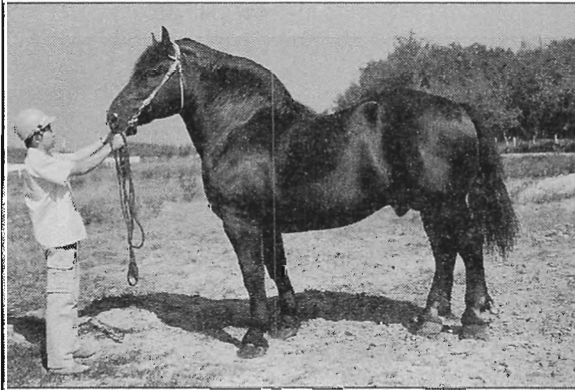


### カミシホロトップ号

1. 生年月日 昭和52年4月18日
2. 生産地 北見市
3. 生産者 武田金十郎
4. 通算成績 154戦16勝
5. 取得賞金額 52,465,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

半血 キタミクイーン

— ブル 蝶 武  
— 中半血 勇 栄

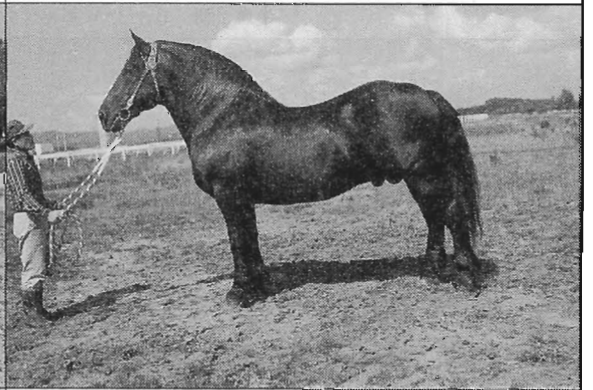


### キヨウリュウ号

1. 生年月日 昭和52年6月10日
2. 生産地 音更町
3. 生産者 高山久夫
4. 通算成績 98戦23勝
5. 取得賞金額 21,861,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 紅雲

— ベルジ ジアンデュマレイ  
— ペル 楓 姫

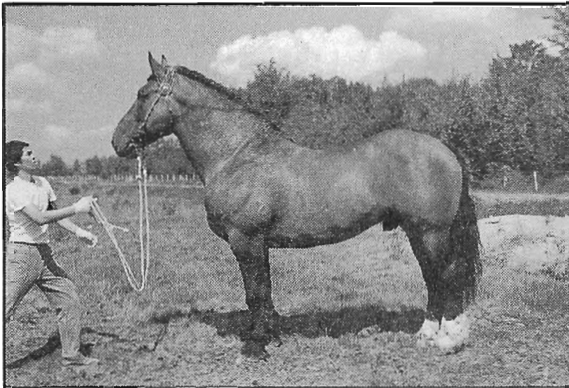


### キンタロー号

1. 生年月日 昭和52年5月5日
2. 生産地 別海町
3. 生産者 桑川一郎
4. 通算成績 102戦32勝
5. 取得賞金額 116,725,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

ベル系 二世宝玉

— ペル 二世ロッシェニ  
— ペル系 宝 玉

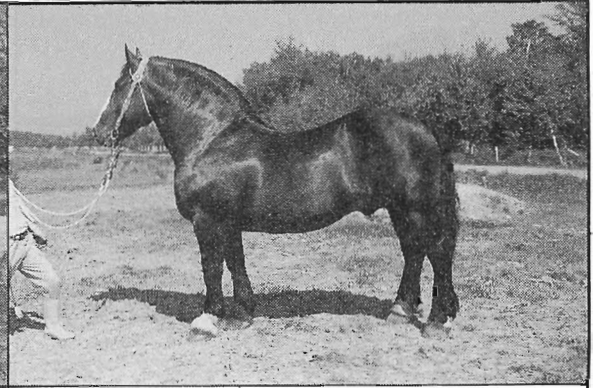


### ソウヤコマ号

1. 生年月日 昭和52年4月11日
2. 生産地 椎内市
3. 生産者 宮越豊八
4. 通算成績 135戦16勝
5. 取得賞金額 14,350,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

半血 大鷲

— ペル リッケイ  
— 半血 静波

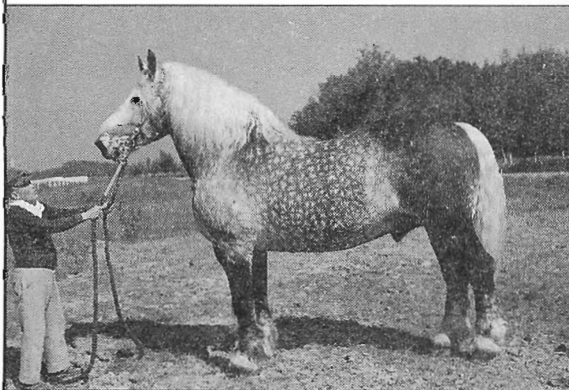


### タカノリュウ号

1. 生年月日 昭和52年4月24日
2. 生産地 網走市
3. 生産者 大野正助
4. 通算成績 133戦25勝
5. 取得賞金額 22,968,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

半血 勝福

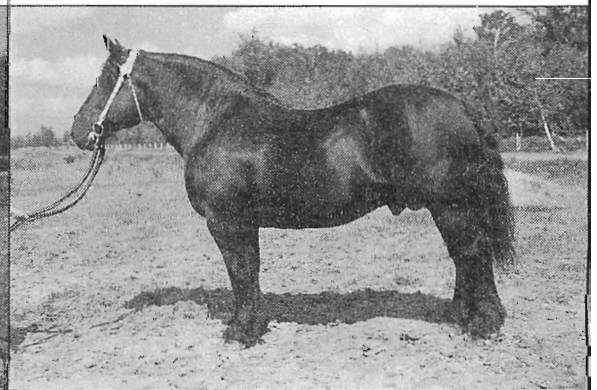
— ペル 二世ロッシーニ  
— 半血 ナボレ



### タカラキング号

1. 生年月日 昭和52年4月22日
2. 生産地 阿寒町
3. 生産者 青田 忠
4. 通算成績 157戦15勝
5. 取得賞金額 14,549,000円
6. 性・毛色 牡芦
7. 血統

ベル系 タカラキング — ペル ハンブルグ  
— 半血 宝姫

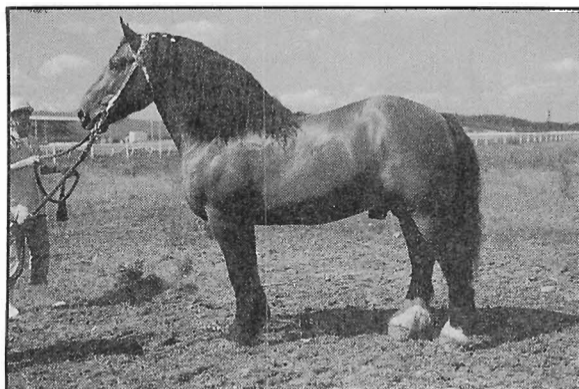


### タカラハナ号

1. 生年月日 昭和52年7月25日
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 川口秀麿
4. 通算成績 141戦18勝
5. 取得賞金額 23,356,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 宝花

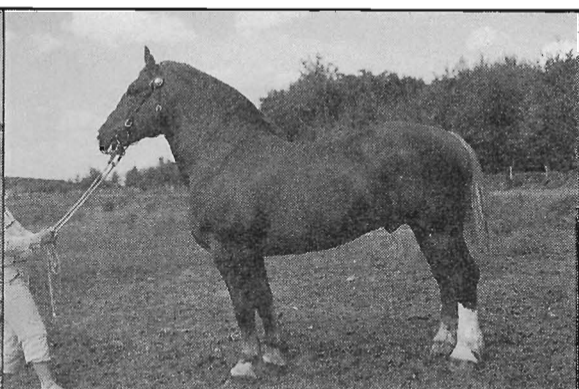
— 半血 タカラコマ  
— 半血 梅花



### タカラユーホ号

- 1. 生年月日 昭和52年4月18日
- 2. 生産地 富良野市
- 3. 生産者 嶋田 吉太郎
- 4. 通算成績 157戦14勝
- 5. 取得賞金額 11,022,000円
- 6. 性・毛色 牡 鹿
- 7. 血統

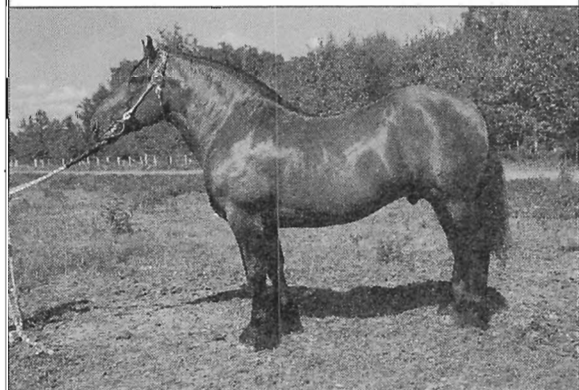
ブル系 鉄 苑 — [ブル ボヌール  
半血 花 鯉



### タマテツオ号

- 1. 生年月日 昭和52年4月13日
- 2. 生産地 白糠町
- 3. 生産者 竹田 基栄
- 4. 通算成績 152戦14勝
- 5. 取得賞金額 11,920,000円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

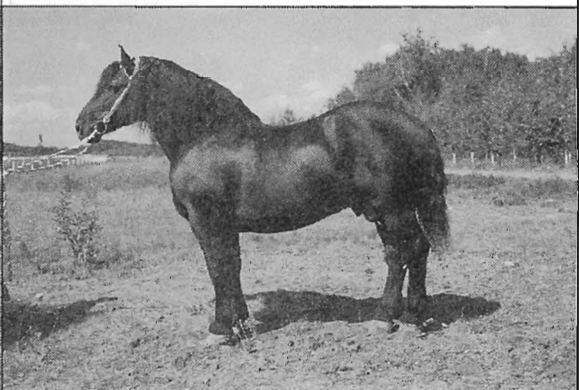
半血 隆 勝 — [ベルジ コンエレガント  
半血 宝 隆



### ドウナンシンザン号

- 1. 生年月日 昭和52年4月10日
- 2. 生産地 上ノ国町
- 3. 生産者 若狭 定雄
- 4. 通算成績 140戦18勝
- 5. 取得賞金額 18,233,000円
- 6. 性・毛色 牡 鹿
- 7. 血統

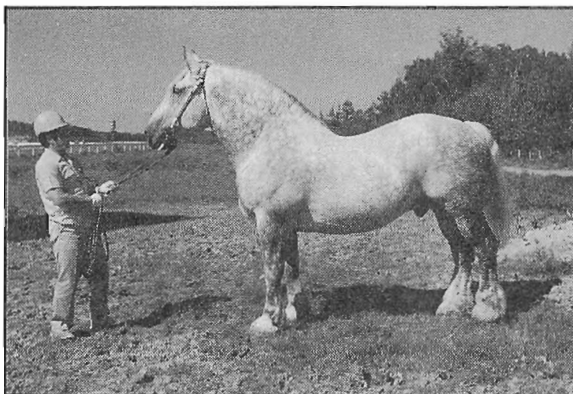
半血 新 梅 — [ベル系 新 宝  
半血 初 梅



### バンリュウ号

- 1. 生年月日 昭和52年5月20日
- 2. 生産地 豊頃町
- 3. 生産者 川向 義信
- 4. 通算成績 113戦19勝
- 5. 取得賞金額 23,984,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

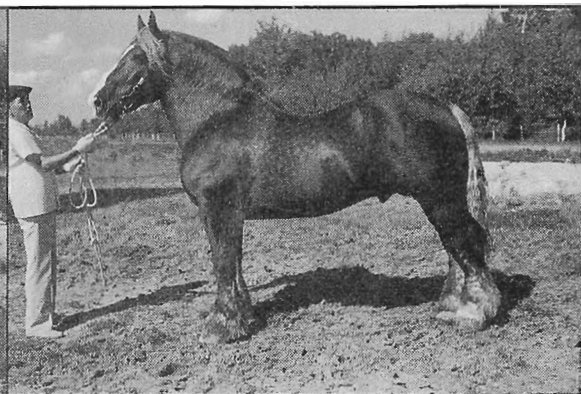
半血 宝 博 — [半血 タカラコマ  
半血 博 西



### プレスタケシバ号

- 1. 生年月日 昭和52年3月25日
- 2. 生産地 更別町
- 3. 生産者 高島義諦
- 4. 通算成績 162戦14勝
- 5. 取得賞金額 12,033,000円
- 6. 性・毛色 牡 芦
- 7. 血統

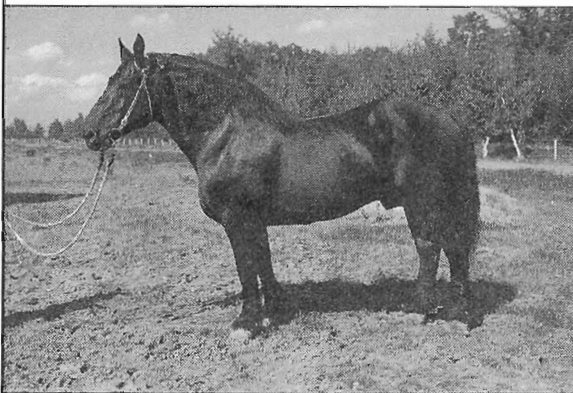
半血 二世タカラコマ — 半血 タカラコマ  
 — ペル系 ロー姫



### ホクテニュー号

- 1. 生年月日 昭和53年3月6日
- 2. 生産地 阿寒町
- 3. 生産者 古内 勇
- 4. 通算成績 144戦17勝
- 5. 取得賞金額 9,847,500円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

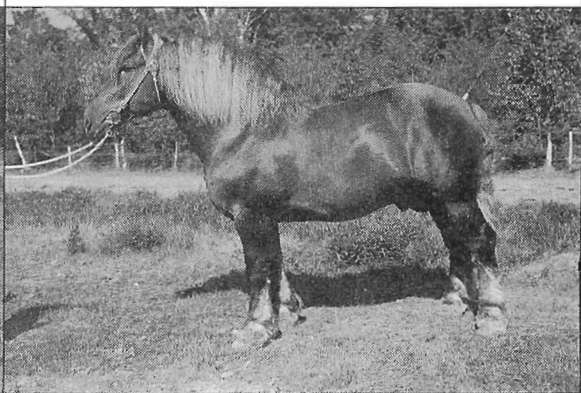
半血 轟 — ブル 銅 柑  
 — 半血 幸 栄



### ホマレタイショオ号

- 1. 生年月日 昭和52年3月28日
- 2. 生産地 雄武町
- 3. 生産者 鈴木由雄
- 4. 通算成績 148戦11勝
- 5. 取得賞金額 25,790,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

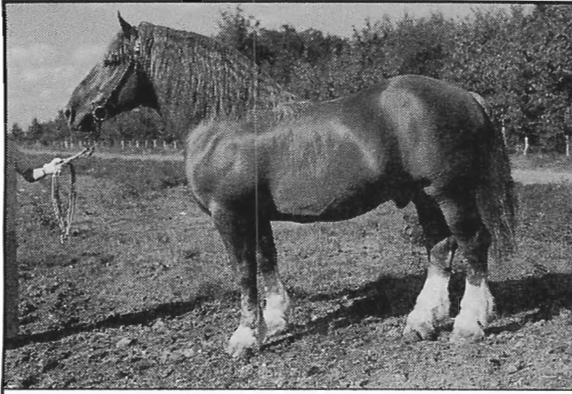
ペル系 第六ダンブ — ペル 楓 朝  
 — 半血 藤 姫



### マコト号

- 1. 生年月日 昭和52年5月3日
- 2. 生産地 芽室町
- 3. 生産者 林 市次郎
- 4. 通算成績 166戦15勝
- 5. 取得賞金額 22,994,000円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

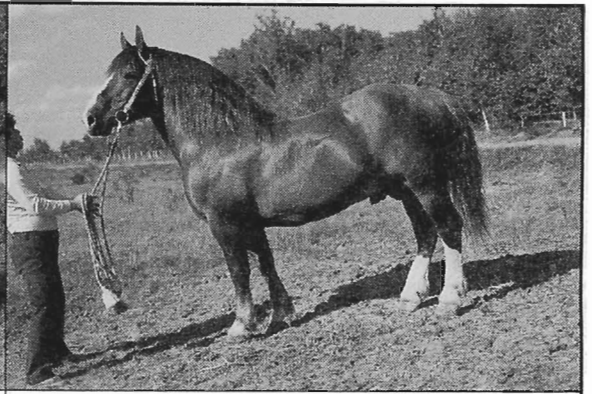
半血 デュマレイ — ペルジ ジアンデュマレイ  
 — 重半 オラ



### ミサワオー号

1. 生年月日 昭和52年3月15日
2. 生産地 浦幌町
3. 生産者 高田 公
4. 通算成績 133戦25勝
5. 取得賞金額 14,184,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

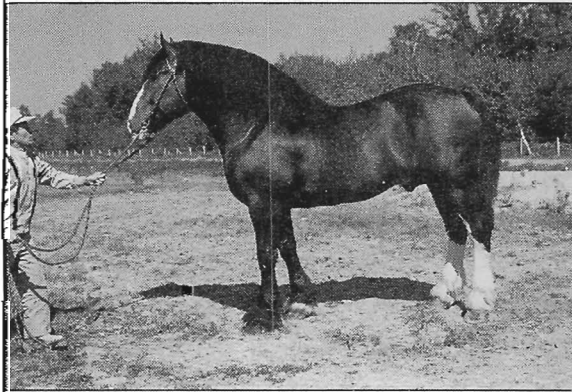
半血 トカチオー — ブル系 ソラチオー  
 — ペル系 庵 宝



### (旧イフウ) メイフウ号

1. 生年月日 昭和52年4月28日
2. 生産地 新得町
3. 生産者 深川 繁 信
4. 通算成績 155戦17勝
5. 取得賞金額 9,877,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

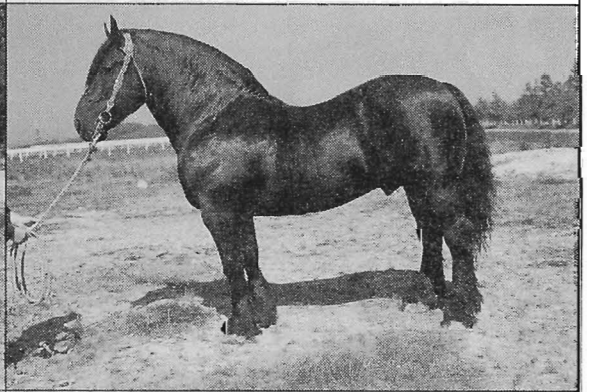
半血 第二家宝 — 半血 タカラコマ  
 — 半血 豊 姫



### メイハウザン号

1. 生年月日 昭和52年3月17日
2. 生産地 紋別市
3. 生産者 片川 勝 博
4. 通算成績 172戦12勝
5. 取得賞金額 21,925,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

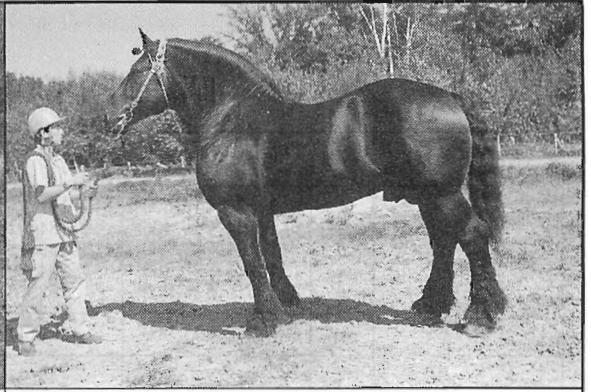
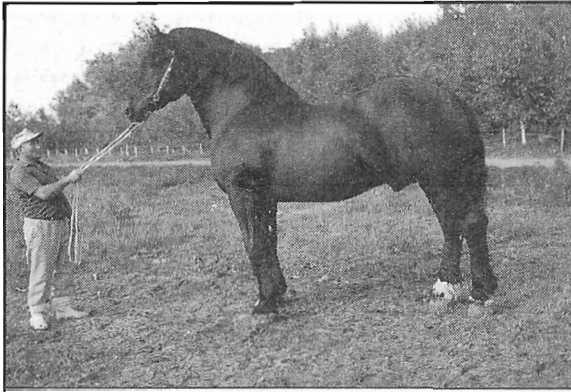
半血 秀 峰 — クラ コレッシュ-エンタープライズ  
 — 半血 五月女



### モンスター号

1. 生年月日 昭和52年4月8日
2. 生産地 池田町
3. 生産者 上田 健 一
4. 通算成績 140戦15勝
5. 取得賞金額 19,606,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

ペル 青 葉 — ペル 第三オデオ  
 — ペル系 久 星



### ヤシタフジ号

- 1.生年月日 昭和52年4月12日
- 2.生産地 豊浦町
- 3.生産者 矢野清志
- 4.通算成績 161戦19勝
- 5.取得賞金額 25,641,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

ベル ソオルレシ  
 ┌ ベル ヒタチオー  
 └ ベル 盤詠

### ワカタイショウ号

- 1.生年月日 昭和52年4月30日
- 2.生産地 幕別町
- 3.生産者 佐渡忠孝
- 4.通算成績 166戦27勝
- 5.取得賞金額 23,520,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

半血 第三ベルジャン  
 ┌ ベルジ ジアンデュマレイ  
 └ ベル イデュメー八世



## 昭和61年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
旭川市	1	1,030,567,600	171,761,267	52,387,000	17,824	2,971
	2	1,104,061,400	184,010,233	53,478,000	18,130	3,022
	3	1,194,763,700	199,127,283	52,078,000	19,325	3,221
	4	1,226,371,300	204,395,217	53,742,000	19,654	3,276
	5	1,516,691,900	252,781,983	75,069,000	23,000	3,833
	計	6,072,455,900	202,415,197	286,754,000	97,933	3,264
帯広市	1	878,280,500	146,380,083	40,647,000	15,686	2,614
	2	987,927,000	164,654,500	39,639,000	15,363	2,561
	3	943,633,500	157,272,250	40,234,000	15,291	2,549
	4	916,386,800	152,731,133	39,910,000	12,945	2,158
	5	1,058,342,200	176,390,367	49,947,000	14,006	2,334
	計	4,784,570,000	159,485,667	210,377,000	73,291	2,443
北見市	1	545,997,300	90,999,550	36,807,000	11,946	1,991
	2	633,260,200	105,543,367	40,564,000	13,787	2,298
	3	600,357,000	100,059,500	40,312,000	9,584	1,597
	4	749,723,600	124,953,933	43,719,000	9,283	1,547
	5	832,776,800	138,796,133	43,683,000	7,811	1,302
	6	934,727,400	155,787,900	52,467,000	10,175	1,696
	7	1,145,959,200	190,993,200	46,059,000	9,857	1,643
	計	5,442,801,500	129,590,512	303,611,000	72,443	1,725
岩見沢市	1	782,990,200	130,498,367	49,606,000	15,411	2,569
	2	797,291,800	132,881,967	47,194,000	13,381	2,230
	3	878,950,500	146,491,750	51,256,000	14,392	2,399
	4	1,140,842,500	190,140,417	53,370,000	15,851	2,642
	5	1,363,678,000	227,279,667	55,710,000	19,464	3,244
	計	4,963,753,000	165,458,433	257,136,000	78,499	2,617
合	計	21,263,580,400	161,087,730	1,057,878,000	322,166	2,441

## 昭和61年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
岩見沢	1	1,046,931,100	174,488,517	70,020,000	12,758	2,126
	2	1,278,250,300	213,041,717	68,130,000	16,377	2,730
	3	1,277,160,300	212,860,050	65,520,000	10,584	1,764
	4	1,347,234,700	224,539,117	67,770,000	9,670	1,612
	5	1,151,022,500	191,837,083	73,890,000	12,691	2,115
	6	1,525,718,700	254,286,450	75,510,000	12,006	2,001
	計	7,626,317,600	211,842,156	420,840,000	74,086	2,058
旭川	1	1,119,576,400	186,596,067	69,930,000	10,213	1,702
	2	1,352,588,200	225,431,367	72,270,000	8,958	1,493
	3	974,743,500	162,457,250	70,920,000	9,428	1,571
	計	3,446,908,100	191,494,894	213,120,000	28,599	1,589
札幌	1	1,665,767,900	277,627,983	72,990,000	36,839	6,140
	2	1,712,749,100	285,458,183	82,620,000	34,308	5,718
	3	1,695,479,300	282,579,883	86,670,000	39,563	6,594
	4	1,884,532,900	314,088,817	89,010,000	34,499	5,750
	5	1,515,892,400	252,648,733	91,260,000	30,397	5,066
	6	1,562,264,500	260,377,417	89,910,000	31,194	5,199
	7	1,378,237,700	229,706,283	83,520,000	24,515	4,086
	8	2,005,477,800	334,246,300	104,400,000	35,617	5,936
	計	13,420,401,600	279,591,700	700,380,000	266,932	5,561
合	計	24,493,627,300	240,133,601	1,334,340,000	369,617	3,624

### 昭和62年度市営ばんえい競馬日程表(予定)

 旭川 
  北見 
  岩見沢 
  帯広

4月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	㉑	30		
																							旭①								旭②	
5月	1	2	③	④	⑤	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	㉑	
6月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30		
7月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31	
8月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑯	17	18	19	20	21	22	㉑	24	25	26	27	28	29	⑳	31	
9月	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	⑮	16	17	18	19	⑳	21	22	㉑	24	25	26	⑳	28	29	30		
10月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	⑩	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	⑳	26	27	28	29	30	31	
11月	①	2	③	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉑	㉒	24	25	26	27	28	㉑	30		
12月	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	31	

### 昭和62年度道営競馬日程表(予定)

 函館 
  帯広 
  旭川 
  札幌

4月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	㉑	30		
5月	1	2	③	④	⑤	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	㉑	
6月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30		
7月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31	
8月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑯	17	18	19	20	21	22	㉑	24	25	26	27	28	29	⑳	31	
9月	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	⑮	16	17	18	19	⑳	21	22	㉑	24	25	26	⑳	28	29	30		
10月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	⑩	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	⑳	26	27	28	29	30	31	
11月	①	2	③	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉑	㉒	24	25	26	27	28	㉑	30		



昭和62年 3月

札幌市北区北10条西4丁目北海道畜産会館2階 (TEL) 代表747-5345